

上田市文化財調査報告書第81集

宮原遺跡Ⅱ

長野県酒類販売株式会社上田支店建設工事に伴う発掘調査報告書

2000. 3

長野県酒類販売株式会社
上田市教育委員会

上田市文化財調査報告書第81集

宮原遺跡Ⅱ

長野県酒類販売株式会社上田支店建設工事に伴う発掘調査報告書

2000. 3

長野県酒類販売株式会社
上田市教育委員会

序

上田市は長野県の東部、千曲川の清流と烏帽子岳をはじめとする山々に囲まれた美しいまちです。近年は上信越自動車道、北陸新幹線の開通に伴い地域の要としますますの発展が期待されているところであります。

一方、遠く時代を溯ると古代には聖武天皇の詔によって信濃国分寺が建立され、また、信濃国の国府も置かれていたと考えられており、当時の上田地域は信濃国の政治・文化の中心地であったことがわかります。中世には塩田平の数多くの寺院で学問が盛んに行われ、「信州の学海」と呼ばれるに至りました。また、安土桃山時代には上田城を本拠地として真田氏が活躍し、現在の上田市発展の下地をつくりあげました。さらに、近代に入ると信越本線が開通し一時は蚕都と呼ばれるほどの養蚕・製糸業のまちとして活気を呈しています。このように、上田は古代から現在に至るまで地域の政治・経済・文化を担ってきました。

このたび、上田市秋和地区における長野県酒類販売株式会社上田支店建設工事事業地が周知の埋蔵文化財包蔵地「宮原遺跡」に当たることから、工事に先立ち発掘調査を実施し後世に記録を残すこととなりました。今回は平成9年度の第1次調査に続く第2次の発掘調査となりましたが、第1次調査の際とほぼ同時期の弥生時代後期から古墳時代前期にかけての堅穴住居跡が発見されました。また、縄文土器片のほか中世の掘立柱建物跡も確認され、この地籍が古くから居住に適した立地であったことがわかりました。





埋蔵文化財は過去の人々の日常生活をうかがい知ることのできる貴重な情報源であり、私たちの郷土の歴史を解き明かすかけがえのない財産であります。これらを生きた教材として生涯学習の中で活用していくことが、現代に生きる私達の生活を豊かにするものと確信しております。

最後になりましたが、発掘調査から報告書刊行に至るまでの間、多大なる御理解と御協力を賜りました長野県酒類販売株式会社の皆様と作業員の皆様衷心より感謝申し上げます。

平成12年3月

上田市教育委員会教育長 我妻 忠夫

例 言

- 1 本書は長野県上田市大字秋和字宮原 1110-3 に所在する宮原遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本書は、長野県酒類販売株式会社上田支店建設工事に伴う発掘調査報告書であり、長野県酒類販売株式会社から委託を受け、上田市（上田市教育委員会事務局文化課）が実施した。
- 3 現地調査は平成 10 年 12 月 23 日～平成 11 年 1 月 27 日に行い、整理作業・報告書刊行は平成 11 年 4 月 12 日～平成 12 年 3 月 31 日で行った。
- 4 本書の作成は小笠原正が行った。
- 5 現地調査におけるバックホーによる表土剥ぎ作業は、和農興 竹内和好 に委託した。
- 6 現地調査における基準点測量・水準測量および航空写真撮影・測量は、株式会社ジャステックに委託した。
- 7 調査にあたっては、国土地理院の平面直角座標第Ⅱ系に属する $X=46010.000$ 、 $Y=-24566.000$ の地点を基準点 O とした。また南=S、東=E とし、3m を 1 単位として 1・2・3…の数値を与え両者の組合せでグリッドを設定した。例えば今回調査した SD06 は S7E3 グリッドにある。（図 5 宮原遺跡Ⅱ遺構全体図を参照）
- 8 本調査に係る出土遺物、実測図等は上田市立信濃国分寺資料館に保管している。
- 9 本調査にあたり株式会社ミヤノには様々な御協力をいただいた。記して感謝する次第である。
- 10 各遺構の略称は次の通りである。
SB：竪穴住居跡 ST：掘立柱建物跡 SK：土坑 SD：溝跡 P：住居跡内ピット S：濠
- 11 遺構実測図は原則として原図 1/20、縮尺 1/3 である。
- 12 土器および土器拓本は縮尺 1/3、石器は縮尺 1/2、銭貨は原寸大とした。
- 13 土器の実測方法は、4 分割法を用い、右側 1/2 に断面および内面を、左側 1/2 に外面を記した。
- 14 スクリーントーンへの指示は次の通りである。
遺構：焼土  土器：赤色処理  黒色処理  石器：磨面 
- 15 石器石材の鑑定は長野県立上田高等学校 中谷 進・川口 剛 両氏に御教示いただいた。
- 16 遺物観察表の（ ）内の数値は、土器については図上復元による推定値、石器・銭貨については残高・現重量を表している。
- 17 遺物番号は本文・観察表・実測図・写真図版とも相互に一致している。
- 18 土層および出土土器の色調は「新版標準土色帖」（農林水産省農林水産会議事務局 監修・財団法人日本色彩研究所 色票監修）1997 年度版を使用した。

目 次

序	第 2 章 遺跡の環境	写真図版
例言	第 1 節 自然的環境…………… 2	調査報告書抄録
目次	第 2 節 歴史的環境…………… 2	
第 1 章 発掘調査の経緯	第 3 章 検出された遺構と遺物	
第 1 節 調査に至る経緯…………… 1	第 1 節 遺跡の概要…………… 8	
第 2 節 調査体制…………… 1	第 2 節 遺構および出土遺物… 9	
第 3 節 調査日誌（抄）…………… 1	第 3 節 小結…………… 13	

第1章 発掘調査の経緯

第1節 調査に至る経緯

平成10年9月初め、株式会社ミヤノから自社所有の造成地を長野県酒類販売株式会社に売却するため、事前に発掘調査を行うことにつき上田市教育委員会に依頼があった。売却予定地はすでに平成9年度の試掘調査の結果、遺跡の存在が確認されていたため、平成10年12月から現地調査を実施することとなった。

平成10年12月21日、長野県酒類販売株式会社と上田市は発掘調査委託契約を結び調査に着手した。

第2節 調査体制

教育長：我妻忠夫 教育次長：宮下明彦（平成11年3月31日退任）、内藤政則（平成11年4月1日着任）

文化課長：川上元 文化財係長：細川修

文化財係：平林裕藏（平成11年4月1日着任）、中沢徳士、尾見智志（平成11年3月31日退任）、塩崎幸夫

久保田敦子、久保田浩（平成11年3月31日退任）、西沢和浩（平成11年9月30日退任）

山崎敦子（平成11年3月31日退任）、清水彰、小笠原正、望月貴弘（平成11年3月31日退任）

古野明子（平成11年3月31日退任）、松野ひろみ（平成11年3月31日退任）、須藤千恵子

現地調査：金沢修治郎、鈴木義房、高石知之、高桑豊治、滝澤七郎、中島昭吾、保屋野友延、佐野和男

および 柳沢栄治、塚田陽子、美倉津京子、上原祐子、川上けい子、小松みづ子、相馬敦子、横井順子

整理作業 田畑しず子、田村雄二、塚原和子、中沢由美子、保屋野道子、松本裕子、山浦幸子、餐場奈那江

井沢光子、石合好江、市村みづ子、大井敦子、田村まり子、丸田由紀子、山本万里

（順不同・敬称略）

第3節 調査日誌（抄）

平成10年12月23日 重機による表土剥ぎ

～平成11年1月19日

平成11年1月4日～26日 遺構検出作業・遺構掘り下げ

1月25日 航空写真撮影準備

1月26日 航空写真撮影

1月26日～29日 遺構測量

平成11年4月12日 上田市埋蔵文化財整理室において断続的に遺物整理・報告書作成作業・刊行

～平成12年3月31日

第2章 遺跡の環境

第1節 自然的環境

上田市は長野県の北東部、千曲川の中流域に開けた小盆地にある。市内のほぼ中央を千曲川が流れ、盆地は大きく東と西に分けられる。

西側は大きく浦野川流域の平坦地と塩田平に分かれる。浦野川流域は北西方向に大林山、子種嶺（こまゆみ）岳、飯綱山、城山を含む川西山地があり、その間を田沢川、阿鳥川、室賀川が刻んでいる。南側は夫神（おがみ）岳から東へ延びる尾根状の川西丘陵によって、塩田平と隔てられており、全体として東西に細長い谷平野を形成している。一方、川西丘陵の南側には塩田平が広がっている。周囲を大神岳、女神岳、独鈷山、小牧山をはじめとする山々に囲まれ、北に向かつて幅の狭くなる袋状の地形をしている。この平野部を産川、湯川、尾根川等の小河川が流れているが、いずれも水源となる周囲の山系が浅いため水量に乏しい。

東部には現上田市街地が広がっている。市街地の北側は屏風状に屹立する太郎山脈により区切られる。西から虚空蔵山、太郎山、東太郎山が聳え立ち、その南斜面は急峻で山麓線は塩尻岩鼻の断崖から上野方面まで、直線的に平野部と接している。基盤は新生代第三紀内村層の緑色凝灰岩である。山麓には幾つもの扇状地が形成されており、太郎山と東太郎山の間の谷を水源とする黄金沢扇状地が最も発達している。

段丘面は下から大きくⅠ・Ⅱ・Ⅲ面に分かれる。Ⅰ面は現市街地が展開する平坦面であり、上田城はこの段丘崖を利用して築城されたものである。Ⅱ面には市街地東側の逆三角形をなす染屋台と呼ばれる平坦地が相当する。また、この北側には虚空蔵山を中心とするⅢ面がある。

また、上田盆地の気候は塩田平の溜め池が示すように年間降水量 1,000 mm 以下と少なく、国内有数の寡雨地帯である。

宮原遺跡は市内秋和地区にあり、Ⅰ面の西端に位置する。南と西は比高差約 10m の千曲川段丘崖で直下に氾濫源が広がる。北は風呂川によるⅠ面の浸食で浅い谷を生じているため、一見、西方へ突き出た半島状の地形を呈する。また、風呂川を挟んで北側には虚空蔵山の南斜面が間近に迫っている。

第2節 歴史的環境

宮原遺跡の立地する太郎山山麓は千曲川右岸でも比較的遺跡の集中した地区である。この一帯では旧石器時代の遺跡は未だ発見されていないが、縄文時代から中世に至る各時代の遺跡が確認されている。

縄文時代の遺跡としては、前期の上原式土器、石鏃、打製石斧を出土した宮原遺跡が最も古い。このほかはいずれも中期～後期に属する。この時期の遺跡としては弥勒堂遺跡、宮原遺跡、上平遺跡、八幡裏遺跡、大星西遺跡などがある。弥勒堂遺跡は平成 4 年、北陸新幹線建設に伴い発掘調査が行われ、中・後期土器、石鏃、打製石斧、石槍が出土した。八幡裏遺跡では昭和 27 年の国立東信病院（現国立長野病院）改築工事の際に中期の加曾利 E 式、後期の堀之内式・加曾利 B 式土器が出土したほか、磨製石斧、打製石斧、ニホンジカ・イノシシなどの獣骨が出土している。また、平成 6 年の国立長野病院建設に伴う第Ⅱ次調査地点では中期後葉～後期中葉の土器と共に敷石住居跡 7 件が確認されたほか、土坑墓 3 基が発見され中から屈葬位の人骨が出土している。このほか、

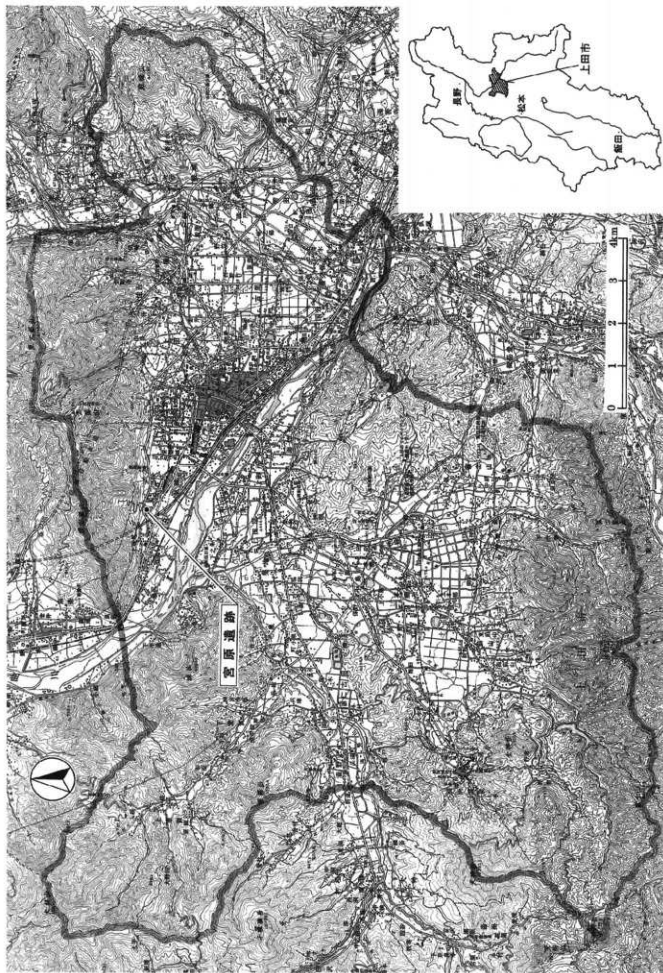


図1 上田市全体図および運線の位置

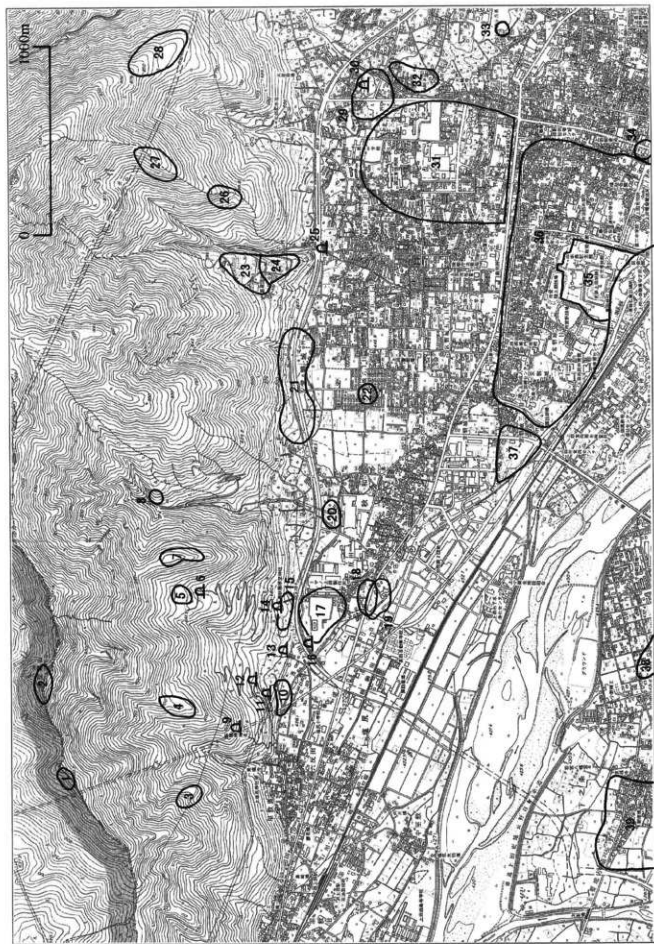


图2 福州周边地形图

No	遺跡名	時代	所在地	備考	No	遺跡名	時代	所在地	備考
1	高ツヤ城跡	中世	上堀原字巖山		21	殿田遺跡	平安	常磐城字横頭・仁王田	1985年調査
2	虚空藏山城跡	中世	上堀原字虚空藏		22	七反田遺跡	平安	常磐城字七反田	
3	森城跡	中世	上堀原字原		23	上平遺跡	縄文～平安	常磐城字上平	1968・1983年調査
4	持越城跡	中世	上堀原字持越		24	北林城跡	中世	常磐城字上平	
5	甲弥陀平遺跡	平安	秋和字甲弥陀平		25	豊原古墳	古墳	上田字豊原	1987年調査
6	赤比平古墳	古墳	秋和字甲弥陀平		26	年代城跡	中世	常磐城字虚空藏	
7	新瀧原跡	中世	秋和字新瀧山		27	アヲ城跡	中世	常磐城字太郎山	
8	臺平遺跡	平安	秋和字臺平		28	花古屋城跡	中世	上田字花古屋	
9	持越古墳	古墳	上堀原字持越	河減	29	大呈西遺跡	縄文・古墳	上田字大呈西	
10	赤船堂遺跡	縄文・古墳 ～中世	上堀原字赤船堂	1992年調査	30	二子屋古墳	古墳	上田字秋葉裏	上田市指定文化財
11	赤船堂古墳	古墳	上堀原字赤船堂	河減	31	八幡宮遺跡	縄文～平安	上田字恩田・大重前ほか	1962・1994年～調査
12	黒山古墳	古墳	上堀原字赤船堂	河減	32	鷹揚遺跡	弥生・平安	上田字鷹揚	
13	風呂川古墳	古墳	秋和字風呂川	1992年調査	33	西丘遺跡	平安	上田字西丘	
14	秋和八幡大蔵京古墳	古墳	秋和字大蔵京1391	上田市指定文化財	34	海野遺跡	弥生・平安	上田字海野	
15	六知遺跡	平安・中世	秋和字六知		35	上田城跡	近世	二の丸	国史跡・1990～95年調査
16	吾郎古墳	古墳	秋和字吾郎	河減・今田調査	36	上田城跡	近世	二の丸ほか	
17	吾郎遺跡	縄文～中世	秋和字吾郎	1997年調査・今田調査	37	唐臼遺跡	平安	常磐城字唐臼	
18	礎石遺跡	平安	秋和字礎石		38	天神堂遺跡	弥生～平安	中之条字天神堂・緑川	
19	林ノ木遺跡	古墳	秋和字林ノ木	1994年調査	39	下之条栗田太田跡遺跡	弥生～平安	F之条	
20	堂屋敷遺跡	平安	秋和字堂屋敷						

周辺遺跡一覧表

住居跡や土坑からはニホンジカ・イノシシ・ウマの骨も出土している。続く平成8年の第Ⅲ次調査地点でも敷石住居を含む3件の竪穴住居跡と共に中期後葉～後期前葉の土器が出土している。また、大星西遺跡でも中期の加曾利E式土器が採集されている。

弥生時代から古墳時代前期の遺跡としては宮原遺跡、上平遺跡、八幡裏遺跡、東奥山原遺跡、雁屋遺跡などがある。このうち八幡裏遺跡では中期の栗林Ⅱ式期の壺形土器が出土している。宮原遺跡では平成9年度の調査で弥生時代後葉～古墳時代初葉の住居跡5件と共に箱清水式土器、東海・北陸系土器が出土している。上平遺跡では昭和43年に畜産団地建設に伴う発掘調査で土坑から弥生後期後半の箱清水式土器を出土した。その後、昭和58年にも高圧鉄塔の建設に伴い一部の調査が行われ、後期後半の住居跡が検出された。また、上平遺跡は一般の弥生時代遺跡と異なり、水田耕作地からかなり離れた山腹テラス台地上にあることから、上小地区でも数少ない高地性集落の可能性が指摘されている。

古墳時代中期から後期の遺跡は、八幡裏遺跡Ⅳ次調査地点（平成8年度実施）で後期の住居跡7件が検出されている。この他柿ノ木遺跡でも平成6年の調査で該期の竪穴住居跡が確認されている。

また、この時期は太郎山・虚空蔵山山麓一帯に多くの古墳が築造されている。なかでも二子塚古墳は上小地方唯一の前方後円墳であり、黄金沢扇状地上の上田盆地を一望できる場所に立地する。全長48mを測り北側には墳丘に沿って凹地が明瞭に残っていることから、周濠がめぐるものと考えられる。墳丘に葺石は施されていないが円筒埴輪が出土しており、その特徴から6世紀前半とみられ、古墳の築造も同時期と推定されている。

一方、秋和・塩尻地区では7基の古墳が知られている。このうち、秋和大藏京古墳は上小地方で最も古く大規模な墳丘を持つ古墳である。昭和59年には筑波大学により詳細な実測調査が行われている。墳丘基底部は一辺32～35m、高さ5～8mを測る。実測作業中に墳丘斜面で大型の有段口縁壺の口縁部が採集され、その特徴から本古墳の築造時期は4世紀末～5世紀前半と推定されている。この他に現存するのは大藏京古墳の上方、虚空蔵山中腹に立地する弥陀平古墳1基のみである。他の5基はほとんどが破壊されていたが、このうち風呂川古墳の一部が平成4年の北陸新幹線建設工事の際に、長野県埋蔵文化財センターによって調査された。墳丘は全く失われていたが、周濠の一部が確認され、その中から壺・甕・高坏などの土器器が出土した。周濠の形状から本古墳は一辺25～30mの方墳と考えられ、築造年代は出土土器器の特徴から5世紀第2四半期と推定されている。

奈良時代から平安時代にかけての遺跡としては、八幡裏第Ⅱ次、Ⅲ次、Ⅳ次、Ⅴ次調査地点でそれぞれ当該期の住居跡が発見されている。殿田遺跡では昭和60年の調査で竪穴住居跡5件のほか銅銭「和同開珎」が出土している。平成4年調査の弥勒堂遺跡では3件の竪穴住居跡のほか、鍛冶工房跡と推定される竪穴と共に輪の羽口・鉄滓が検出されており、10世紀前半の遺構と推定されている。上平遺跡では昭和43年の調査で奈良時代の須恵器窯が調査されている。

また、中世については弥勒堂遺跡で4基、八幡裏第Ⅴ次調査地点で1基の人骨を伴う土坑墓が確認されている。宮原遺跡では教棟の掘立柱建物跡が確認され、柱穴覆土内から銅銭「開元通寶」が出土したが、当該期のまとまった遺構の検出例は未だ少なく、今後の調査の進展に負うところが大きい。

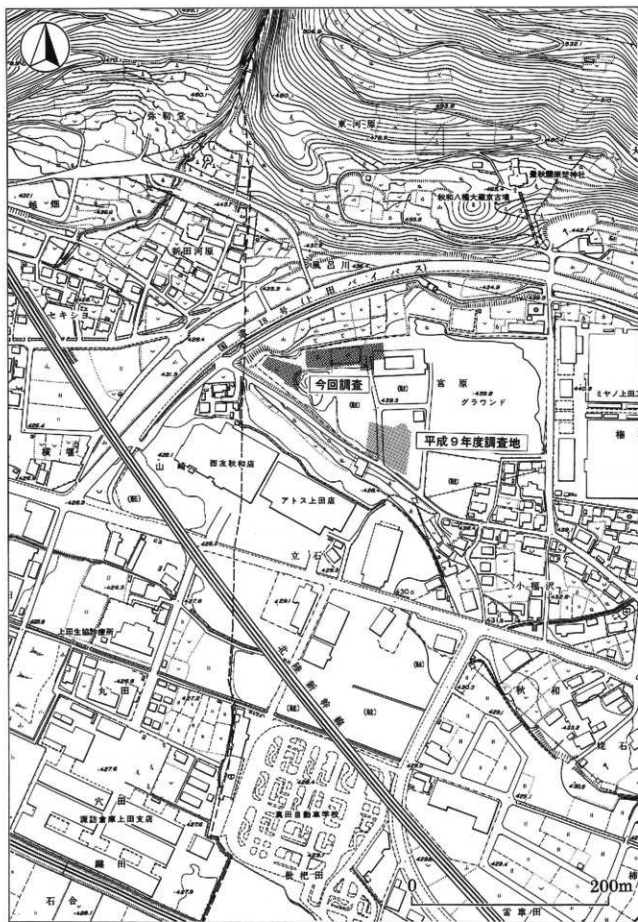


図3 調査範囲

第3章 検出された遺構と遺物

第1節 遺跡の概要

今回の調査は平成9年度に行った調査区の北側にあたる。平成9年度に行った試掘調査の結果をもとに、遺構が残存していると予想される区域を設定し発掘調査を行った。遺構は基本層序の4層から5層上面にかけて掘り込まれている。(下図および写真図版参照) また、遺構検出面まで現地表から1.0~1.5mにわたり土砂が堆積し、上層は整地用の盛土で覆われていた。検出面は所々攪乱されてはいたものの遺構は調査区全面に分布していた。

検出された遺構

竪穴住居跡 6、掘立柱建物跡 1、溝跡 6、土坑 93

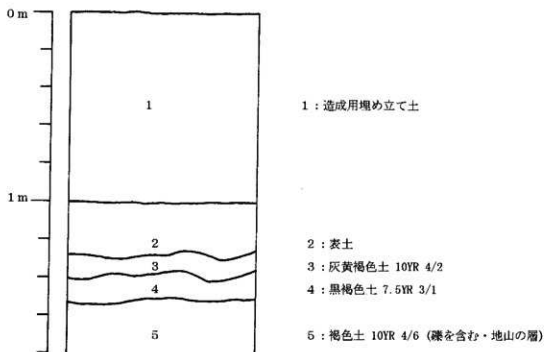
出土遺物

土器：縄文前期・中期初頭・中期後葉～後期前葉土器片、弥生時代後期～古墳時代前期土器

平安時代土器、中世内耳土器・土師質土器皿

石器：石鏃、砥石、敲石、太型給刃石斧、横刃形石器、剥片石器など 　　その他：銭貨

図4 宮原遺跡Ⅱ基本層序



第2節 遺構および出土遺物

(1) 竪穴住居跡

1号竪穴住居跡(SB01)

検出遺構：調査区東部に位置する。南東隅は擾乱によって失われている。北半部は調査区域外へ延びているが平面形態は方形と思われる。南側でSB02を切る。床面レベルはSB02とほぼ等しい。覆土は黒褐色土(10YR 3/1)一層で、礫・若干の炭化物を含む。床面は堅緻であるが、貼り床はなく地山を直接掘り込んでいる。周溝が南壁から西壁にかけて巡る。住居跡内にも3箇所溝が認められた。ピットは6箇所確認された。また、P3・P4とP5の間からは土器集中部が検出され、床面直上から約10cmの堆積がみられた。

出土遺物：土器は壺(29~32)・甕(1・3~15)・S字状口縁台付甕(16~19)・鉢(2・20~24)・蓋(28)・器台(25~27)がある。このうち9・10は口縁端部に面取りが行われており北陸地方の影響がみられる。石器では石鎌(90)、敲石(88)、砥石(89)が出土した。また、覆土中から縄文時代中期初頭・後葉～後期土器片が出土している。(J-2,10,11,15,32)

時期：古墳時代前期。

2号竪穴住居跡(SB02)

検出遺構：調査区東部に位置する。北側は削平とSB01との切り合いで失われている。南東隅でSK20が切る。このほか、SK33・34・90・91・93がSB02を切っている。平面形態は長方形と思われる。北側はSB01に切られるが、SB01の掘り込みが本住居跡と同レベルにとどまっているため、土器敷炉・主柱穴が残存していた。覆土は黒褐色土(10YR 3/1)一層で、礫・若干の炭化物を含む。床面は堅緻であるが、貼り床はなく地山を直接掘り込んでいる。ピットは7箇所確認された。主柱穴はP1・P2・P4・P5と考えられる。このほか、南壁に接してP6があり、ここから溝が西壁へと延び北側へ続く。なお、接続する溝の底部とP6との高低差は接続部分で約15cmであった。溝が東西方向に延びる部分ではほぼ水平となり、北側に向きを変える辺りから10cm程度溝底が低くなる。

出土遺物：炉内から壺の底部(33)が出土した。また南壁沿い中央で壺の胴上部(34)が出土した。石器では横刃形石器(91)が出土した。また、覆土中から縄文時代中期初頭・後葉～後期土器片が出土している。(J-6,7,8,17,27)

時期：弥生時代後期。

3号竪穴住居跡(SB03)

検出遺構：当初SB01の西側、SB02の北側一帯に黒褐色土の広がりが見られたため、住居跡と捉え調査を行ったが、確証は得られず柱穴等の施設も見当たらないことから欠番とした。

4号竪穴住居跡(SB04)

検出遺構：調査区南東部に位置する。南東隅は擾乱によって失われている。平面形態はほぼ長方形で、規模は東西2.1m×南北5.4mである。北東隅でSD01を切る。覆土は黒褐色土(10YR 3/2)一層で、指頭大～拳大の礫・若干の炭化物を含む。貼り床が全面に及んでいる。中央部に焼土が検出された。P1が南西寄りに、P2が南壁に接して設けられている。また、北西寄りには中央部が内湾する礎があるが、

使用の痕跡は確認されなかった。

出土遺物：二重口縁壺 (39)・甕 (35～37)・蓋 (38) がある。また覆土中から縄文時代中期初頭・後葉～後期土器片が出土している。(J-20, 22, 29, 30, 33)

時期：出土土器から弥生時代終末～古墳時代初頭と思われる。

5号竪穴住居跡(SB05)

検出遺構：調査区中央部に位置する。北東隅は削平されている。平面形態はほぼ正方形で、規模は東西 6.4m×南北 6.4m である。西壁で SK55・SK56 に切られる。ピットは 5 箇所確認された。いずれも主柱穴と思われる。全周に溝溝が巡り北東隅から北側段丘崖へ延びている。溝底レベルは住居跡内・北側段丘崖へ延びる部分ともほぼ水平であった。

出土遺物：甕 (40)、口縁端部が「く」字状に外反する鉢 (41) がある。石器では石鏝 (92) が出土しているが、覆土中の縄文時代中期初頭土器片と同じく混入であろう。

時期：出土遺物は少量ではあったが、弥生時代終末～古墳時代初頭に属するものと思われる。

6号竪穴住居跡(SB06)

検出遺構：調査区中央部に位置する。北側は一部調査区域外にかかる。平面形態は隅丸長方形で、東西 5.1m である。床面および壁面に沿って全体に焼土・炭化物が広がっており、焼失家屋であることがわかる。覆土は黒褐色土(10YR 3/1)一層で、親指大の礫を含む。床面は堅緻であるが、貼り床はなく地山を直接掘り込んでいる。地床炉が北側主柱穴間にある。ピットは 11 箇所確認された。このうち P1～P5・P8～P11 は柱穴と考えられる。これらの柱穴はいずれも平面形態が長楕円形である点に特徴がある。また P7 は南壁に接して設けられ、ここから東壁沿いに溝が北へ延びている。溝の断面形態は P7 接続部分で V 字形、東壁沿いでは北に向かうにつれて底部は U 字形になる。溝と P7 との接続部分の段差は約 20cm である。

出土遺物：壺 (54・55)・甕 (42～47)・高坏 (49～52)・深鉢 (48)・蓋 (53) がある。石器では砥石 (93) が出土している。

時期：弥生時代後期。

7号竪穴住居跡(SB07)

検出遺構：調査区中央部に位置する。北側は一部調査区域外にかかる。平面形態は隅丸長方形で、東西 6.4m である。全体に削平が進んでおり残存状況は良くない。SK87・SK88 が SB07 覆土を切る。ピットは 5 箇所ある。主柱穴 P1・P2 のほかに貯蔵穴と思われる P4・P5 がある。P5 内からは扁平礫が出土したが使用痕は認められなかった。西壁際に溝がある。

出土遺物：壺 (70・71)・甕 (56～64)・高坏 (65～69) が出土している。石器では大型蛤刃石斧 (95)、砥石 (94) がある。また覆土中から縄文時代前期・中期後葉土器片が出土している。(J-1, 25)

時期：弥生時代後期。

(2) 溝跡

1号・2号溝跡(SD01・SD02)

検出遺構：調査区東南部に位置する。SD01 は東側が擾乱によって失われている。SD04 に切られる。規模は断面 A-B 付近で幅 1.6m・深さ 0.65m、断面 C-D 付近で幅 1.8m・深さ 0.7m、断面 E-F 付近で幅 2.2m・

出土遺物 深さ0.7m、断面G-II付近で幅1.6m・深さ0.3mである。断面A-Bから断面E-Fまでの溝底レベルは一定しないが、断面E-Fから西側は次第に浅くなり、調査区域外へ延びている。断面形態は逆台形である。覆土は4層に分けられる。(図12および写真図版参照) 遺物は最上部の第1層のみから出土した。図示できたものは甕(72)1点だけである。このほかに縄文時代中期初頭・中期後葉～後期土器片(J9,12,14,24,28)、箱清水式土器片が出土した。SD02はSD01と一連の遺構と考えられる。合流地点は桜の木の根元にあたり調査できなかった。溝底には約80cm×50cmほどの地山の巨礫があった。規模は断面I-J付近で1.2m、深さ0.35mである。南側は調査区域外へ延びている。遺物は甕(73～78)が出土した。遺物の出土量はSD01よりもSD02の方が多い。

時期: SD01の土層はそれぞれ4分層されるが、色調によって断面A-Bでは第1・2層と第3・4層、断面およびC-Dでは第1層と第2・3・4層に大きく二分することができる。両断面とも前者は比較的サイズの大きな礫および褐色土を多く含む。後者では下部ほど砂質の程度を増し、地山の土質に近似してくる。また上部になるにつれて暗褐色の腐しよく礫(土)を含むようになる。このことからSD01の埋没には大きく2段階あることが推定される。遺物が前者のみから出土することも特徴である。以上を勘案すると、SD01は第1層出土の遺物およびSB04との切り合いから、弥生時代後期末までには機能を失っていたものと推定される。また、下部の覆土からは縄文土器片などの混入物も含め全く遺物が出土しないことから、SD01は構築後比較的短期間に埋没過程に入ったものと推定される。このことから構築された時期は出土遺物と時代を隔てない弥生時代後期であると考えられる。SD02もSD01と同時に構築され埋没したものであろう。

3号溝跡(SD03)

検出遺構: SD05とSD06の中間に位置する。南北ともに削平されており、遺構の性格は不明である。
出土遺物: なし。
時期: 不明。

4号溝跡(SD04)

検出遺構: 調査区西部に位置する。北側は風呂川の蛇行によって生じた段丘の屈曲部分に延びるものと思われる。南側も千曲川段丘崖まで続くようである。北側に向かうにつれて削平されている。規模は断面A-B付近で幅3.8m・深さ0.4m、断面C-D付近で幅4.8mである。南側調査区域境の断面観察では深さは0.5m以上あったことがうかがえる。溝底は皿状に若干湾曲し、溝壁は溝底と角度を持って立ち上がる。溝底レベルは437.90m～438.03mである。また溝内から多量の礫が出土した。(写真図版参照) これらは10～40cmほどの河床礫である。出土状況を観察すると礫は溝底に直に接しているもののほか、南側調査区域境の断面から分かるように、かなり溝底から浮いているものもある。(写真図版参照) 覆土内および礫の隙間からは縄文時代～平安時代土器・室町時代の内耳土器片など各期の遺物が出土している。(79～81・96・97・J-18,31) 写真図版のとおり礫は調査範囲内においては大きく2箇所に集中しているが、その中間部の礫のまばらな部分で銭貨「大観通寶」が出土した。(97) 出土レベルは溝底から2～3cm浮いた覆土中である。

時期: 内耳土器片の存在、銭貨「大観通寶」の出土状態から、溝跡は少なくとも中世(室町時代)15～16および世紀には凹地として存在していたと推定される。また覆土内および礫の隙間から内耳土器片が出土する点、および礫自体が覆土中に浮いているものもあることから、これらの礫は溝内へ投棄されたものであると思われる。また溝跡は南北に縦断しており、段丘突端部を区画する意図がうかがえる。

5号溝跡(SD05)

検出遺構：調査区西部に位置する。削平が進んでおり、検出面から5～10cm程度の段差が残存するのみである。この段差の北側および東側も削平が進んでおり、対応する段差が残存するかどうかは不明であった。このため溝跡であるかどうか自体が確実には言い切れない。段差は北西から南東へ直線的に延び、途中で南西方向へ直角に折れる。方形の区画の一部かと思われる。また段下のレベルは438.01m～438.10mであり、SD04の溝底レベルよりも平均して10cm高く掘り込みは浅い。SK75は井戸跡である。この井戸跡については今回の調査に参加した発掘調査作業員が以前から古井戸として存在した事実を記憶していることから、比較的新しいものであることが推定される。

時期：遺物の出土がないため時期を特定できない。またSD04のように覆土中から礫を出土することもなかった。

6号溝跡(SD06)

検出遺構：調査区西端部に位置する。削平が進んでおり、検出面から5～10cm程度の段差をもつ壁面が残存するのみである。SD05と関連する遺構と思われるが、性格は明らかではない。

(3) 中世土坑群

検出遺構：調査区東端では比較的まとまって土坑が検出された。このうちSK02・03、SK11で内耳土器片(82・84・85)、SK09で土師質土器皿(83)が出土している。また、いずれの土坑も土質が共通することから、中世(室町時代)15～16世紀の遺構と考えられる。SK12・SK14・SK16は掘立柱建物跡の一部であろう。(ST01)また、SK20・SD04からも内耳土器片が出土していることから、調査区域内の他の土坑にも中世に該当するものがあると思われる。

(4) 土坑

17号土坑(SK17)

検出遺構：調査区東部にある。南側は攪乱で失われている。北側に向かって深く掘り込まれている。

出土遺物：縄文時代中期初頭土器片(J-3)1点のみを出土した。

時期：他に遺物が無いことから土器片と同時代の可能性がある。

20号土坑(SK20)

検出遺構：調査区東部にある。SR02を切る。径94cm×106cmの円形。

出土遺物：縄文時代中期初頭土器片(J-13)、内耳土器片(86・87)が出土した。

時期：中世(室町時代)15～16世紀

21号土坑(SK21)

検出遺構：SB02南壁に隣接する。SK32に切られる。径142×160cm、深さ24cmの不整形。断面形態は皿状である。出土遺物はなく、時期も不明である。

41号土坑(SK41)

検出遺構：SD01の北側に隣接する。径84×82cm、深さ18cmの円形。断面は皿状である。出土遺物はなく、時期も不明である。

75号土坑(SK75)

検出遺構：調査区西側に位置する。井戸跡である。径106×124cmの不整形。内部から木材・礫が出土したが、投棄されたものである。この井戸跡については発掘調査作業員が以前に存在したことを記憶していることから、比較的新しいものであることが推定される。

76号土坑(SK76)

検出遺構：調査区西端に位置する。径88×110cm、深さ20cmの楕円形。出土遺物はなく、時期も不明である。

79号土坑(SK79)

検出遺構：調査区西側に位置する。平面形態は丸みの強い長方形。規模は86×110cm、深さ15cmである。出土遺物はなく、時期も不明である。

85号土坑(SK85)

検出遺構：調査区西側に位置する。平面形態は長方形。規模は88×152cm、深さ15cmである。底面は平坦である。出土遺物はなく、時期も不明である。

86号土坑(SK86)

検出遺構：調査区西側に位置する。北側は攪乱で失われている。規模は幅86cm、深さ10cm。底面は平坦である。SK85に規模・形態が近似しており、同一の機能を推定できる。出土遺物はなく、時期も不明であるが、SK85とほぼ同時期と思われる。

第3節 小 結

縄文時代の遺物について

今回の調査では調査範囲全体にわたって縄文時代の土器片・石鏃・黒曜石片が確認された。いずれも後世の住居跡や溝・土坑などの覆土中から出土しており、SK17を除き土器と併行関係にあると推定できる遺構は見出せなかった。土器片は縄文時代前期・中期初頭・中期後葉～後期前葉のものがある。(拓本・写真図版参照)『上田市の原始・古代文化』(1977年・上田市教育委員会)によると、宮原遺跡では縄文前期上原式土器が出土しているとの記述がある。今回はこれに新資料を加える結果となった。

弥生時代～古墳時代住居跡について

SB05の周溝は住居跡内を全周し、東北隅で北側の段丘崖へ延びている。同様の遺構は平成9(1997)年度に行った宮原遺跡第1次調査のSB04にも見られる。いずれも屋外への排水施設と考えられる。

SB03・SB05はいずれも南壁に接して比較的規模の大きなビッドがある。またビッドには溝が接続し、壁際に沿って北側に延びている。これについても共通の機能が推定できる。同様の遺構は宮原遺跡第1次調査のSB04にも見られた。

SB06は柱穴が長楕円形の特徴的な平面形態を持つ。偏平な割板を柱材に用いたと考えられるが、上田市内では下町田遺跡(信州大学繊維学部敷地内)、岳の鼻遺跡(下室賀地区)などで同様の住居跡が確認されている。

宮原古墳とSD04・05・06について

宮原遺跡の位置する塩尻・秋和地区は現在のところ7基の古墳が確認されている。このうち宮原古墳について『小縣郡史』（小縣郡役所1922）によれば「明治三十年頃に避病院の敷地となりて、全く破壊し了れり。」とある。また同史古墳一覧表には「地勢一小丘上の平地・塚形一圓」と記載され、宮原遺跡と同じ段丘面上（＝1面・第2章第1節参照）にあり、円墳であることを述べている。また、規模について一覧表は空欄としている。出土遺物は宮原古墳出土と伝える直刀・鉄鏃・土師器などが塩尻小学校に保管されており、6～7世紀代所産のものと考えられている。

宮原古墳は本遺跡の立地する段丘面の西端に存在したものと思われる。従って今回調査を行った区域のうち西側のSD04・05・06付近に古墳の位置を想定できる。ただし、SD05・06は遺物の出土が無く所属時期が不明なため、この方形の区画が宮原古墳に直接関連するものかどうか判断する材料に乏しい。SD04については段丘突端部を独立した区画とするための施設と考えられる。この溝跡についても性格は不明である。溝内に多量に投棄された礫については、段丘面上には全く存在しないものであることから、段丘下の千曲川の河床礫であると見てよいであろう。しかし、溝を埋め立てるためだけに河床礫を段丘下から搬入したとは考えにくい。

中世の遺構について

平成9（1997）年度調査に引き続いて中世の遺構が発見されたことで、今後とも調査区域外で当該期の生活跡が確認される可能性がある。隣接地で調査の機会がある場合には遺構の存在に注意したい。

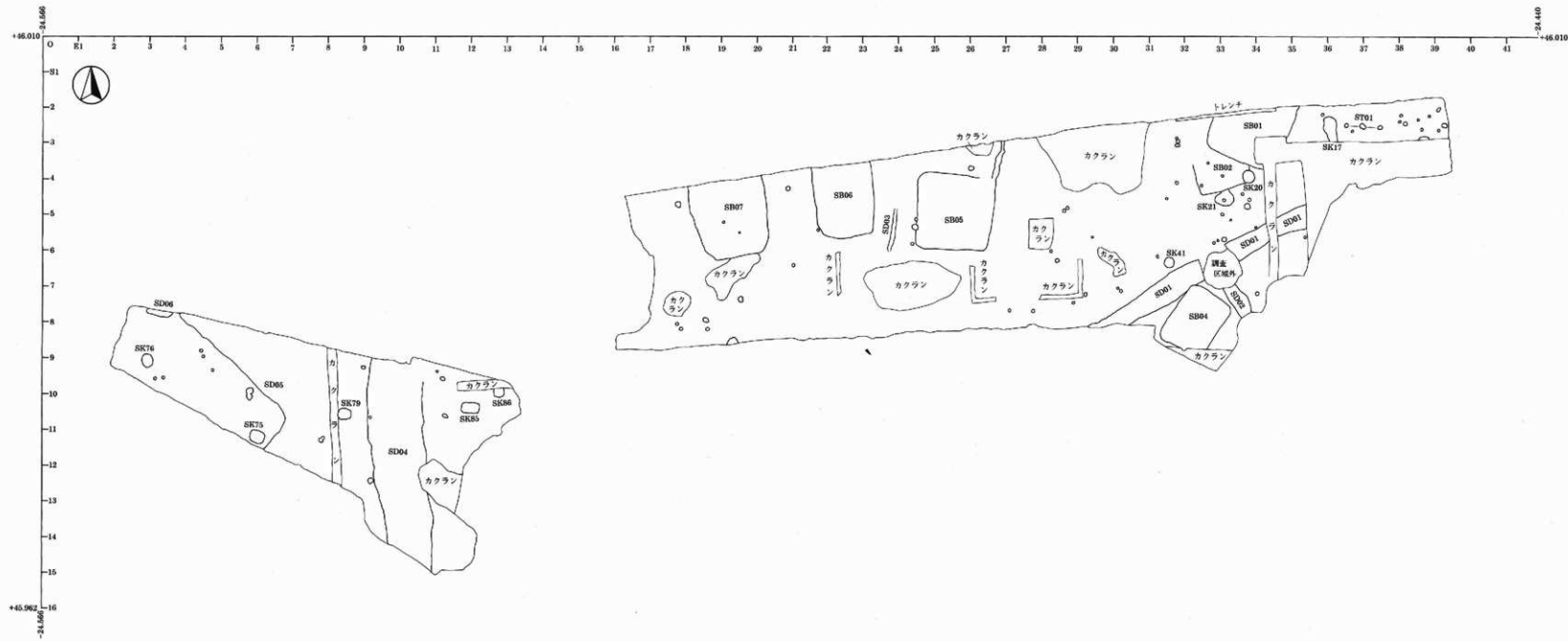


図5 宮原遺跡II遺構全体図 1:300

1号住居跡 (SB01)

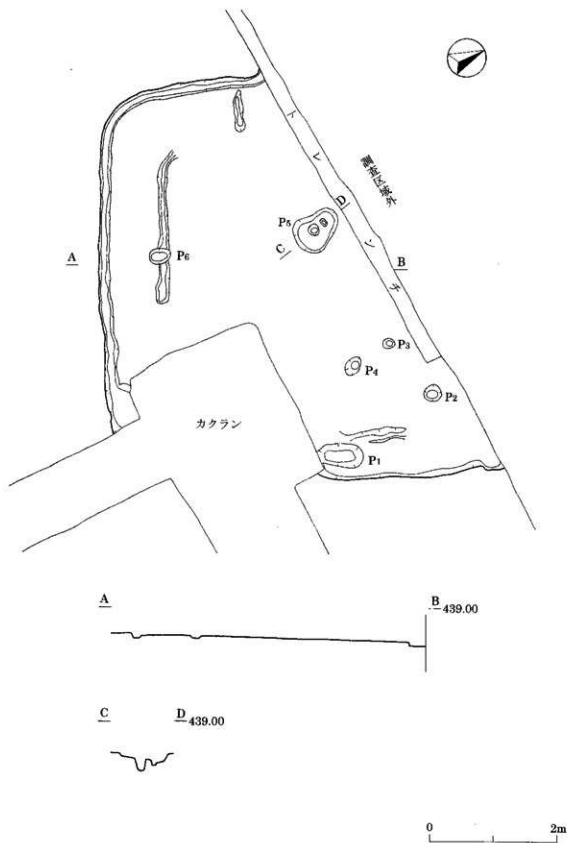


図6 1号住居跡

2号住居跡 (SB02)

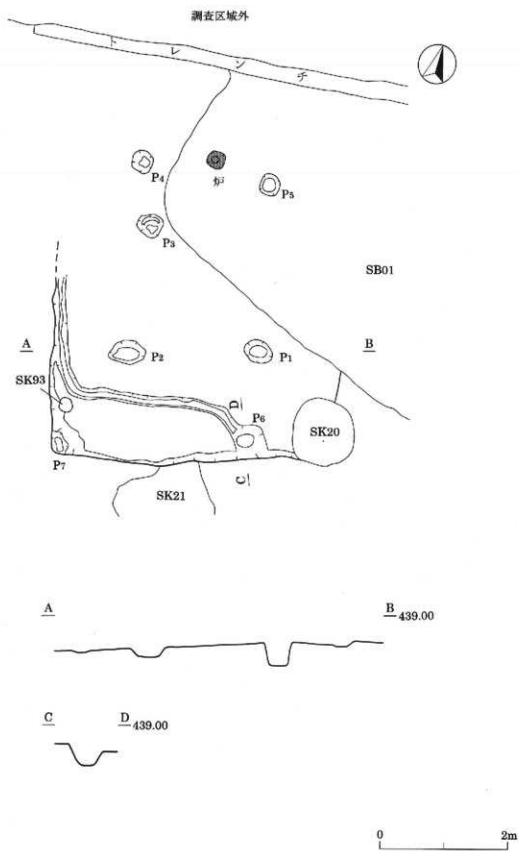


図7 2号住居跡

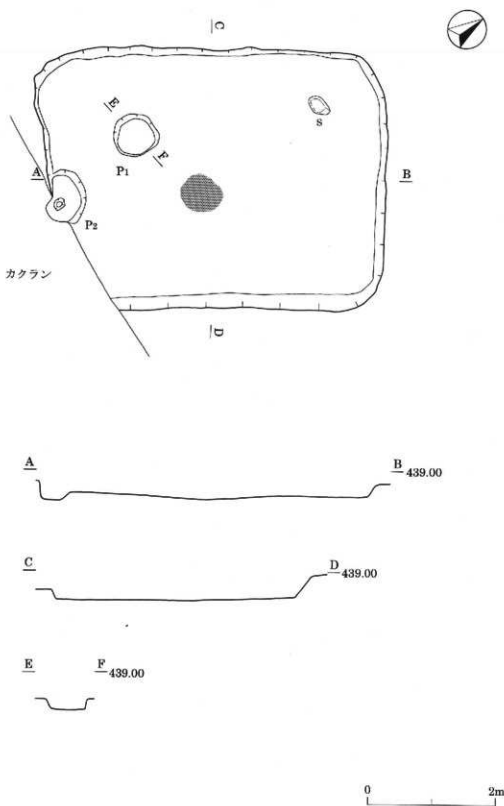


図8 4号住居跡

5号住居跡 (SB05)

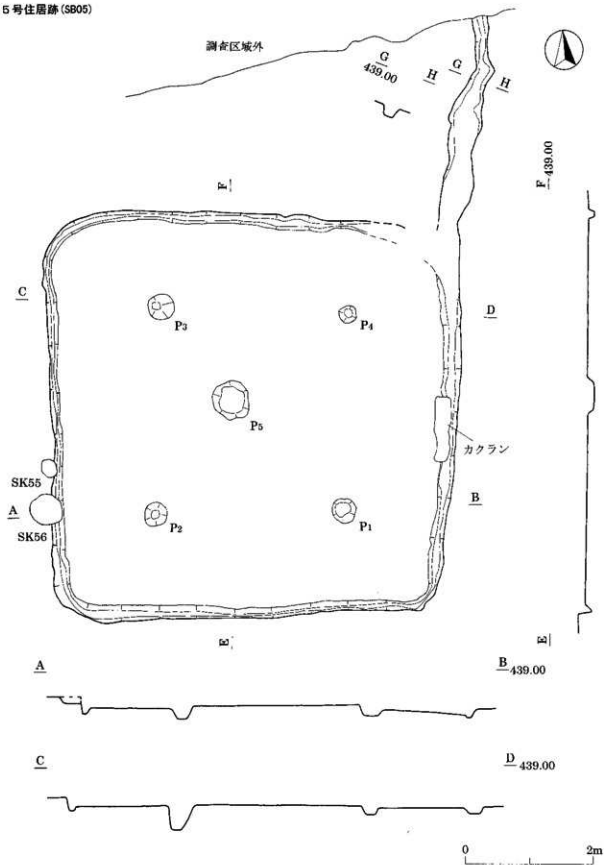


図9 5号住居跡

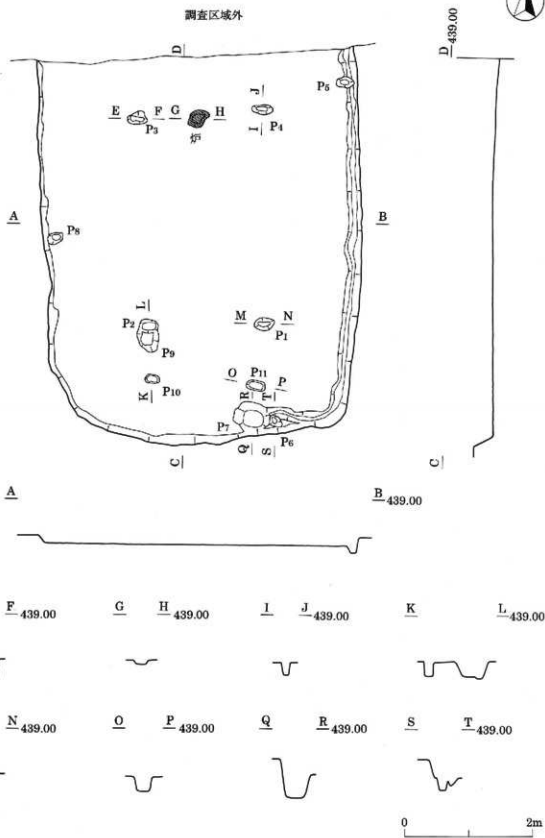
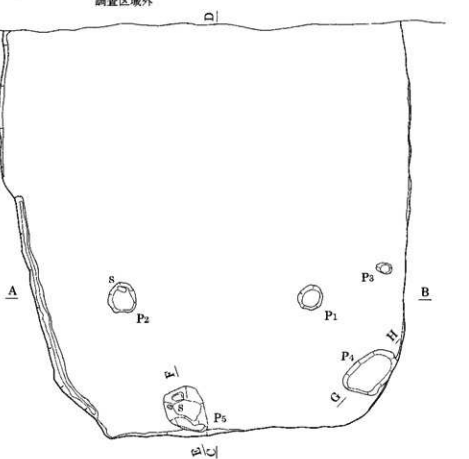


图 10 6号住居跡



A B 439.00



C D 439.00



E F 439.00 G H 439.00



図 11 7号住居跡

1号・2号溝跡 (SD01・SD02)

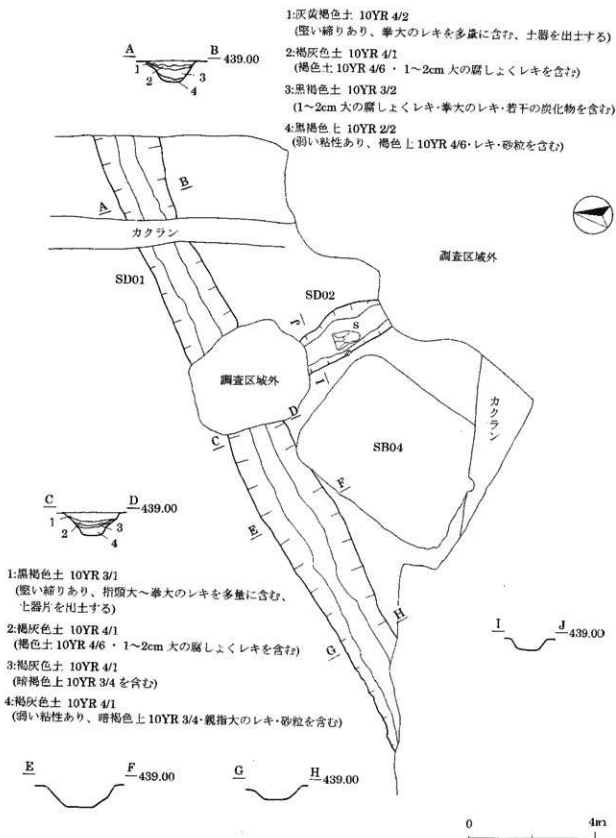


図 12 1・2号溝跡

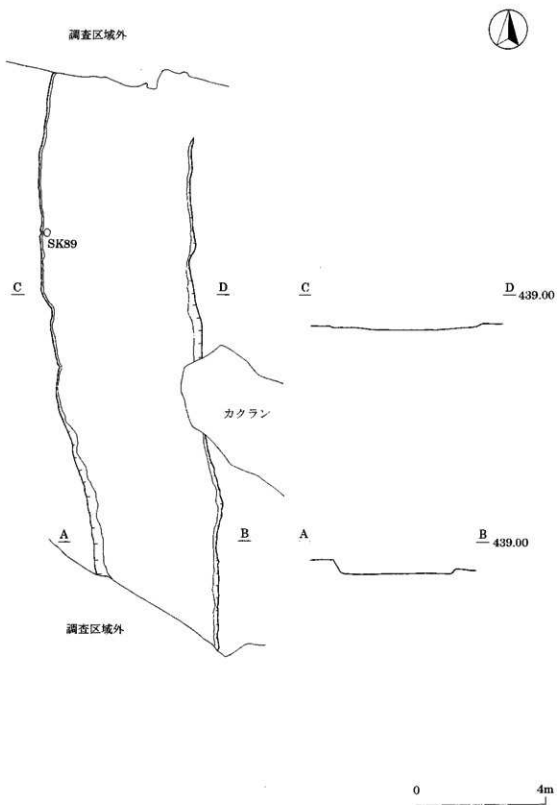


图 13 4号溝跡

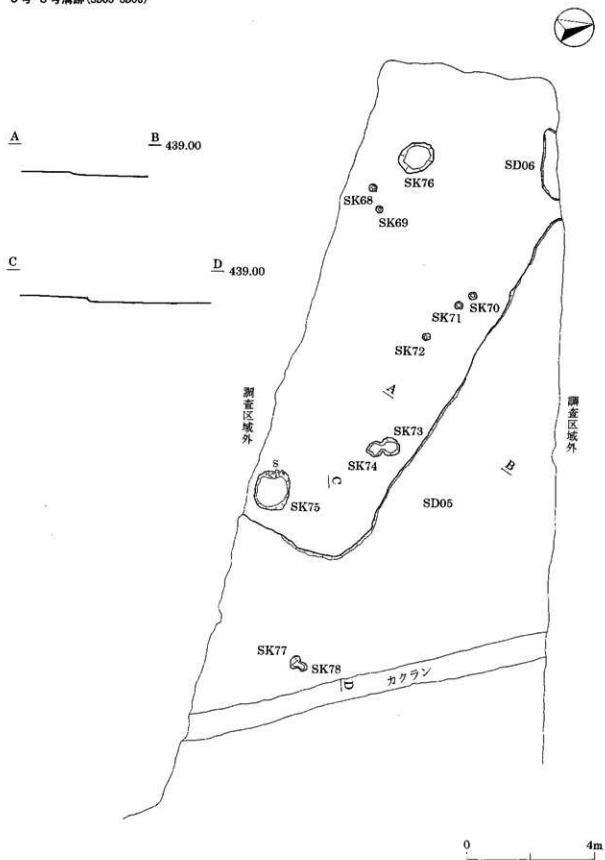


図 14 5・6号溝跡

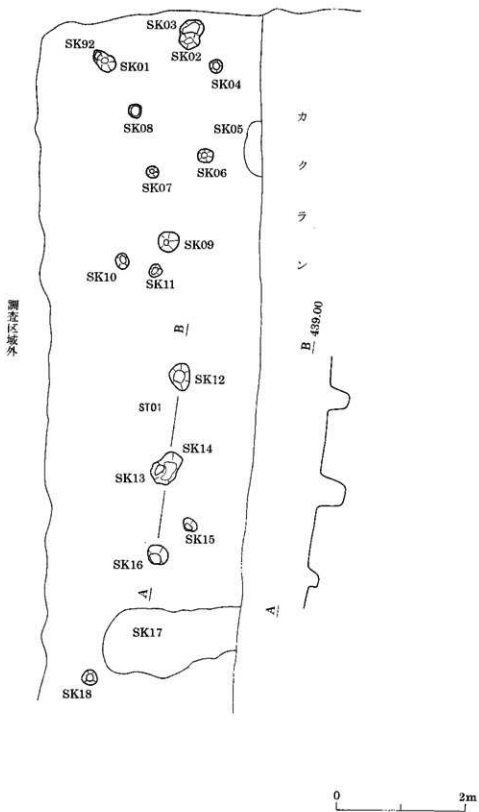
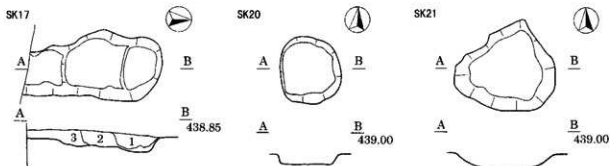


図 15 中世土坑群



- 1: 黒褐色土 10YR 3/1
 (指頭大～拳大のレキを多く含む)
 2: 黒褐色土 10YR 3/1
 3: 黒褐色土 10YR 3/1
 (褐色土 10YR 4/6・レキを含む)

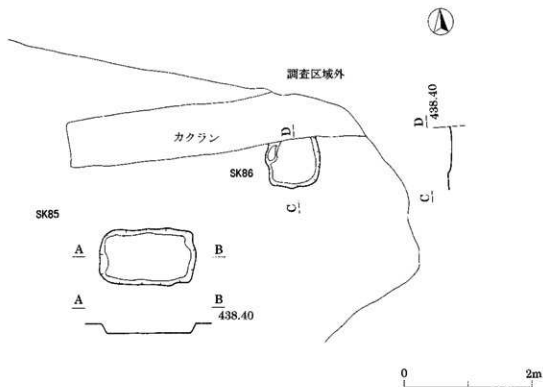
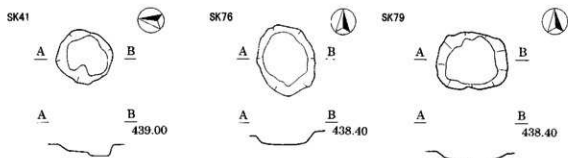


図 16 土坑

1号住居跡 (SB01)

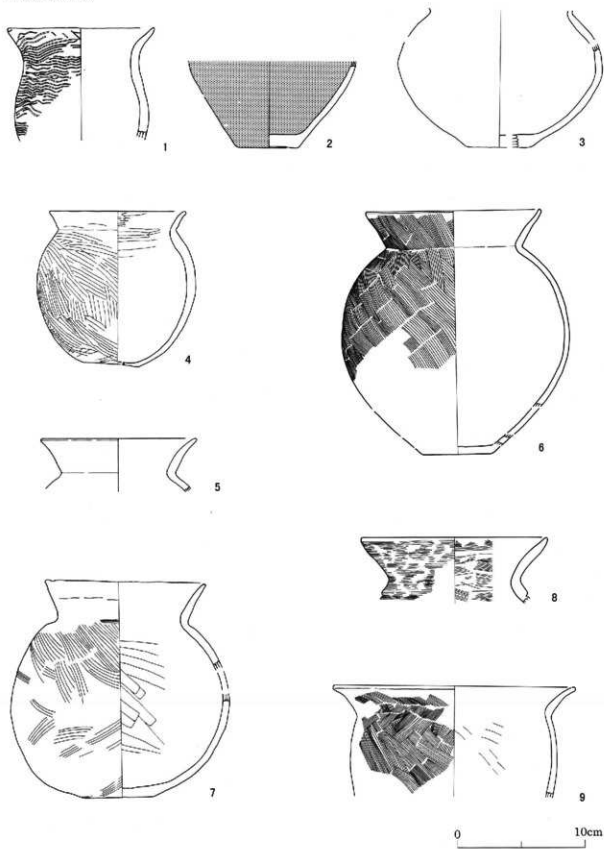


图 17 1号住居跡出土土器

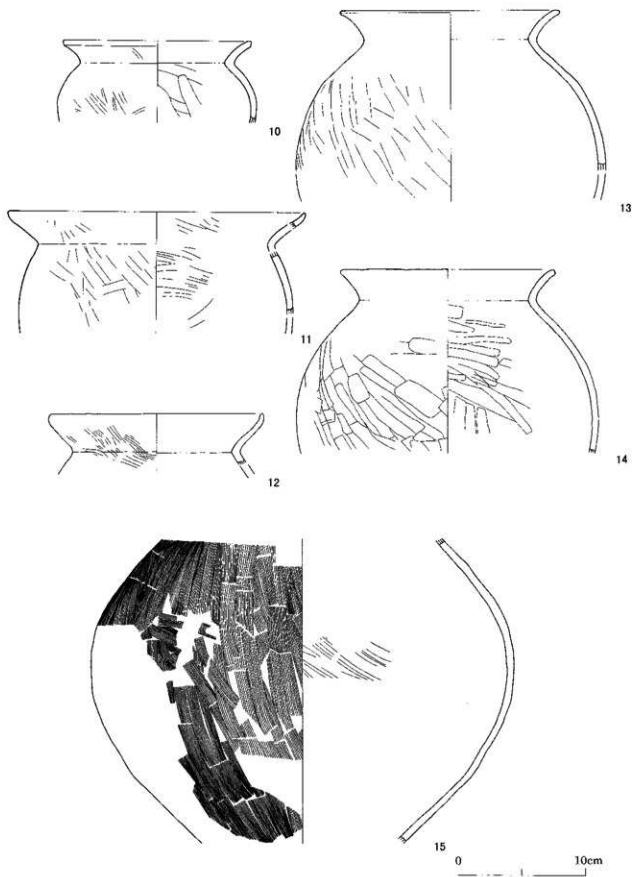


图 18 1号住居跡出土土器

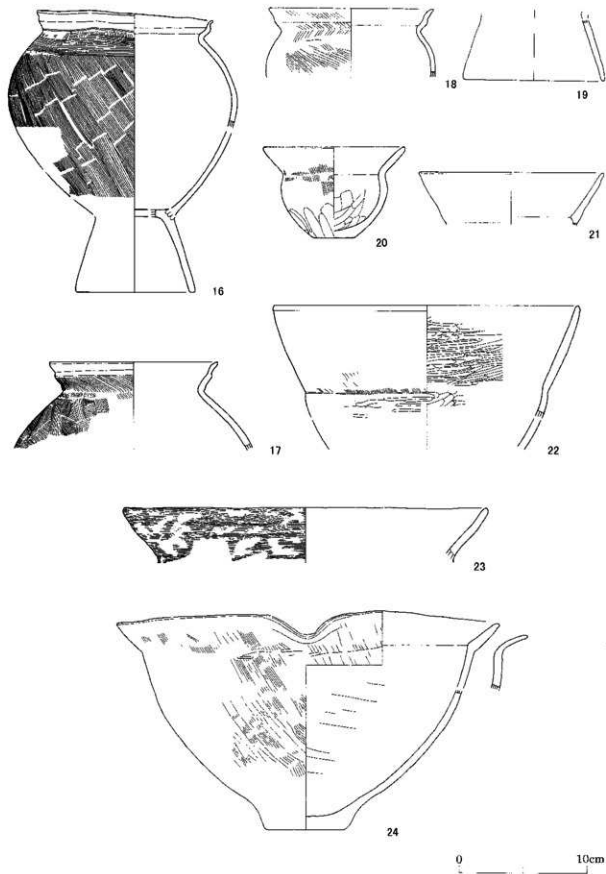


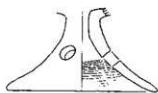
图 19 1号住居跡出土土器



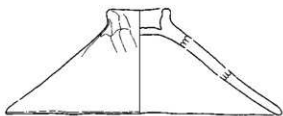
25



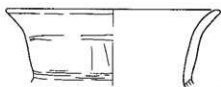
26



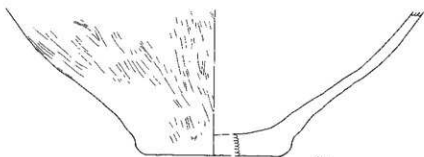
27



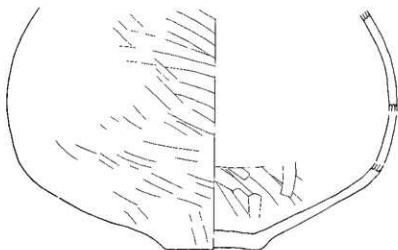
28



29



30



31



32

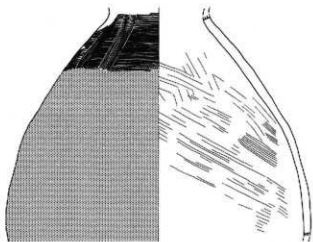


图 20 1号住居跡出土土器

2号住居跡 (SB02)

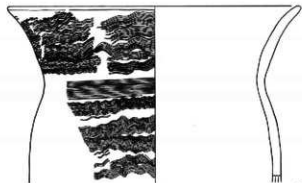


33



34

4号住居跡 (SB04)



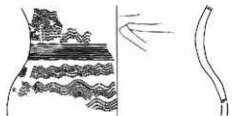
35



36

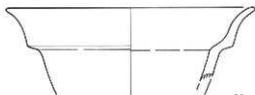


38



37

5号住居跡 (SB05)



39



40



41



图 21 2·4·5号住居跡出土土器

6号住居跡(SB06)

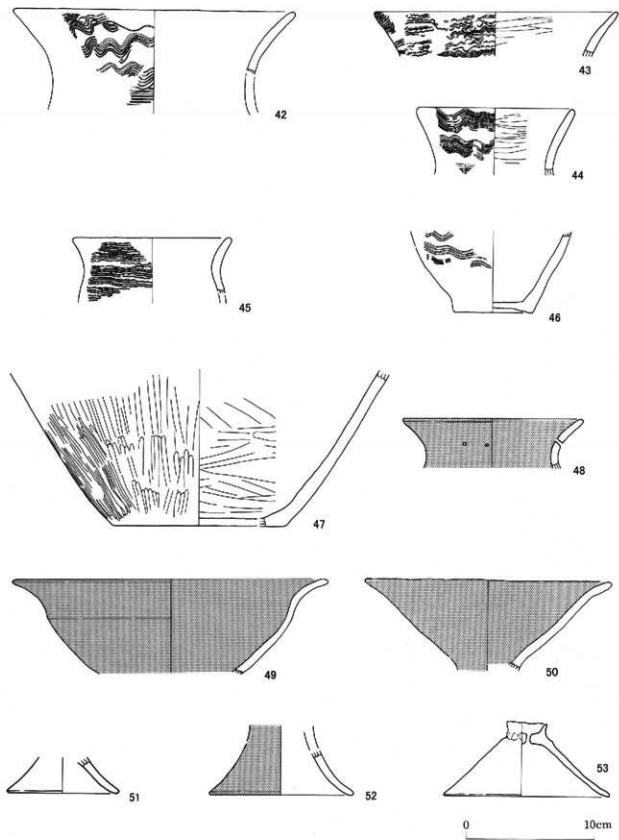
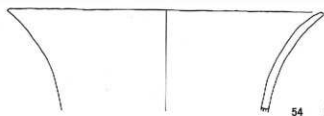
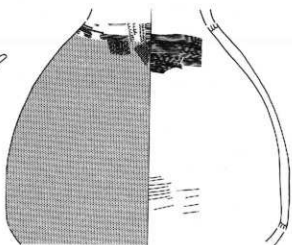


图 22 6号住居跡出土土器



54

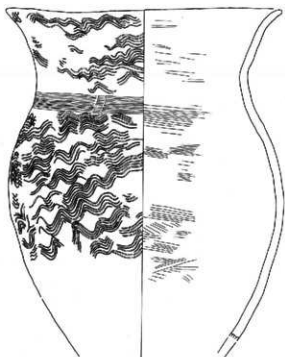


55

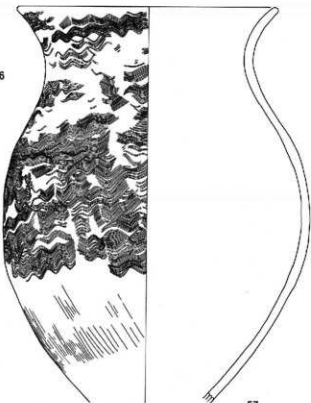
7号住居跡(SB07)



56



58



57



图 23 6·7号住居跡出土土器

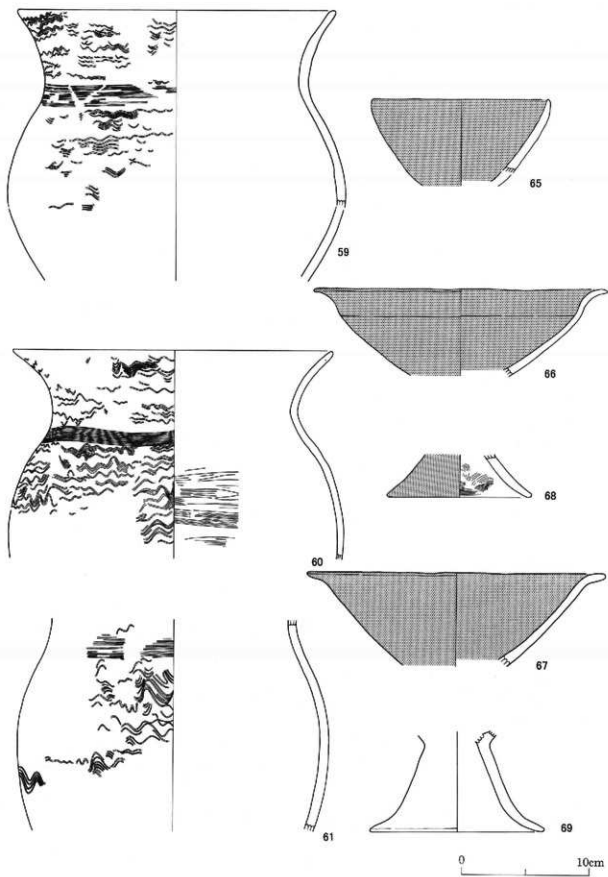


图 24 7号住居跡出土土器

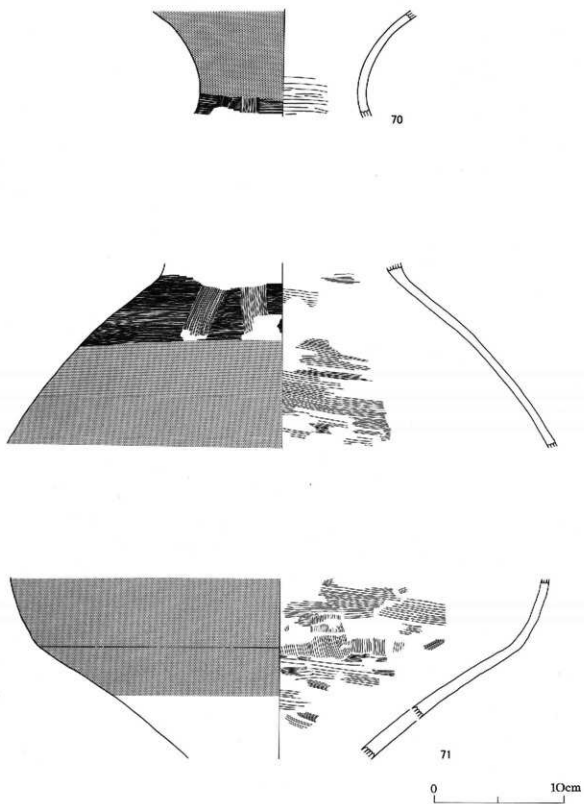
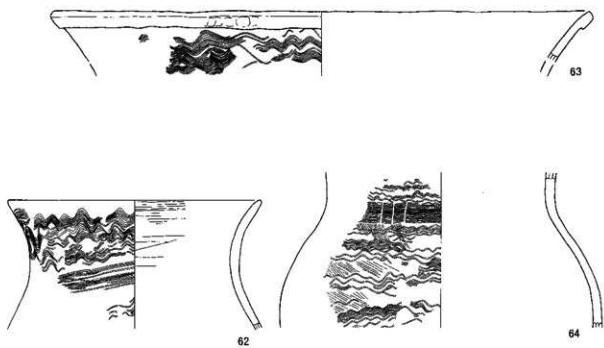
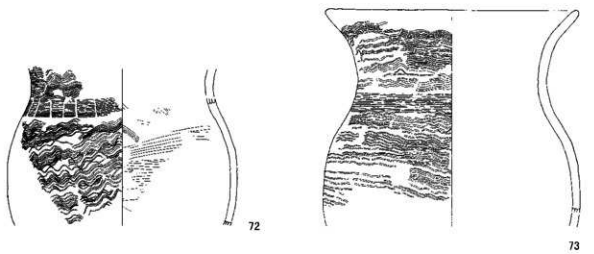


图 25 7号住居跡出土土器



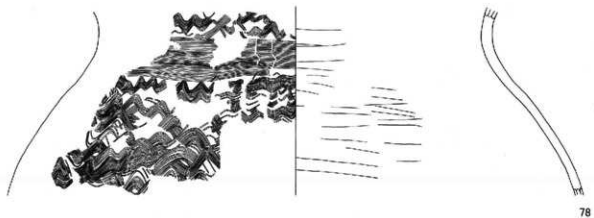
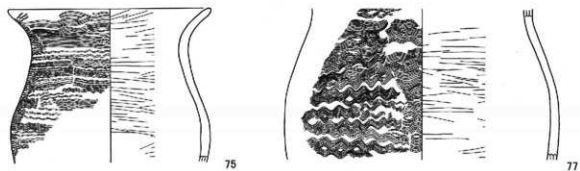
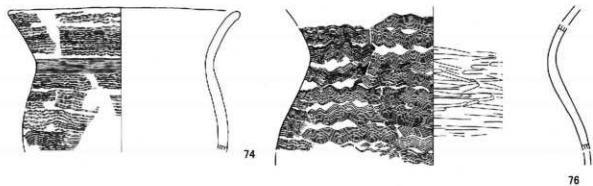
1号清跡 (SD01)

2号清跡 (SD02)



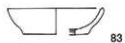
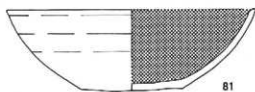
0 10cm

图 26 7号住居跡、1·2号清跡出土土器



4号清跡 (SD04)

9号土坑 (SK09)



0 10cm

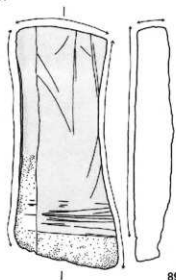
图 27 2-4号清跡、9号土坑出土土器

SB01



88

SB01



89

SB01



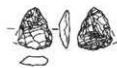
90

SB02



91

SB05

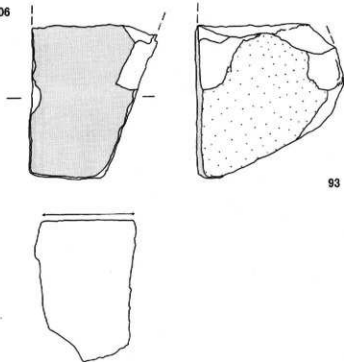


92



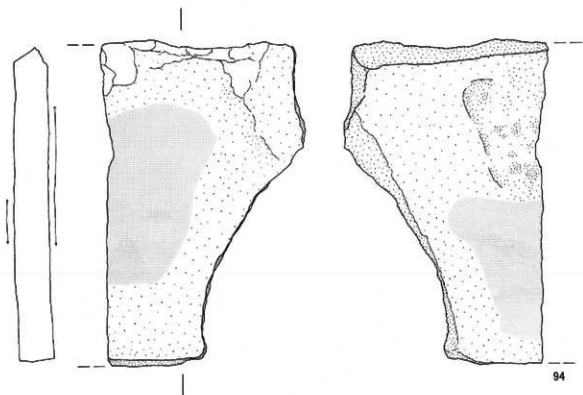
图 28 石器

SB06



93

SB07

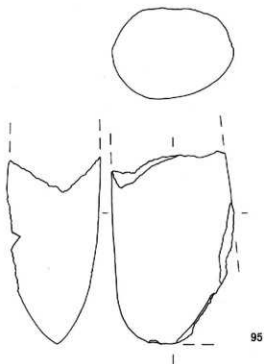


94

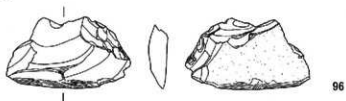
0 10cm

图 29 石器

SB07



SD04



0 10cm

SD04



0 5cm

圖 30 石器・錢貨

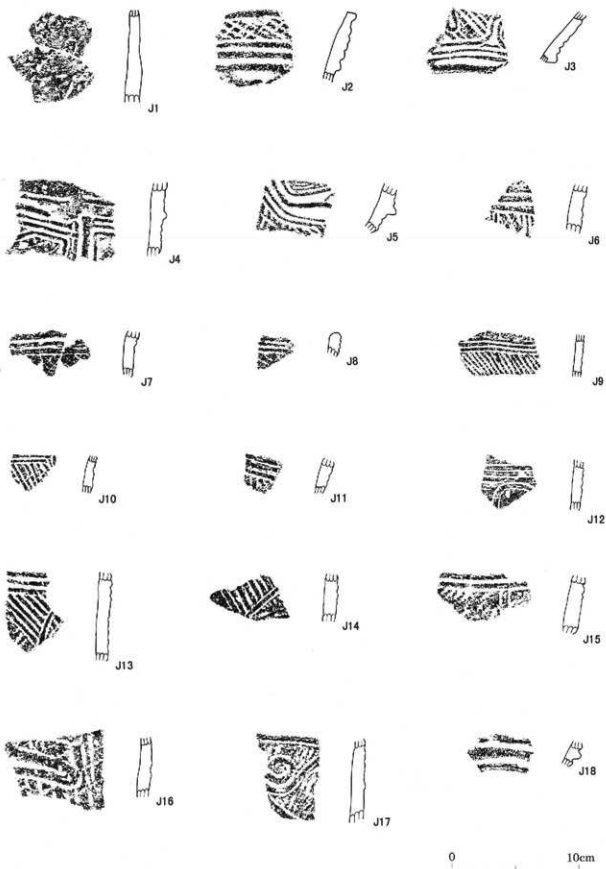


图 31 绳文土器拓本



J19



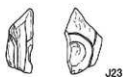
J20



J21



J22



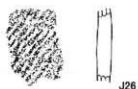
J23



J24



J25



J26



J27



J28



J29



J30



J31



J32



J33



0 10cm

图 32 绳文土器拓本

宮原遺跡Ⅱ 遺物一覧表

No.	遺物名	器種	時代	保存率	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	色 調	取 土	地 成	外 形 圖 像	内 部 調 査	備 考
1	SB-01	甕	弥生	胴上部 1/4	(11.4)	-	-	内 10TR 6/2 成廣縁 外 7.5TR 6/4 にぶい、堀	細砂粒含む	良	鼓状文	ミガキ	
2	SB-01	甕	弥生	1/2	4.7	-	-	内外ともに 7.5TR 4/6 赤	細砂粒含む	良	赤彩・ミガキ	赤彩・ミガキ	
3	SB-01	甕	古墳	1/4	-	(4.8)	-	内 10TR 1/4 堀底 外 7.5TR 6/3 にぶい、堀	細砂粒含む	良	不明	ナデツク	
4	SB-01	甕	古墳	1/2	(10.5)	(4.3)	12.1	内 5TR 6/6 堀 外 5TR 5/1 堀底	細砂粒含む	良	口へ狭 ナデ 縁部 ハケ 胴下部 ミガキ	ミガキ	
5	SB-01	甕	古墳	口縁 1/4	(12.0)	-	-	内 10TR 5/1 堀底 外 10TR 5/2 にぶい、堀底	細砂粒含む	やや良	ナデ	ナデ	
6	SB-01	甕	古墳	1/2	13.5	(5.5)	(19.3)	内外ともに 10TR 7/4 にぶい、黄緑	砂粒多	やや良	ハケ	不明	
7	SB-01	甕	古墳	1/2	12.6	5.5	16.9	内外ともに 10TR 6/4 にぶい、黄緑	細砂粒含む	良	口縁 ナデ 胴部 ハケ	口縁 ナデ 胴部 ナデツク	
8	SB-01	甕	古墳	口縁 1/4	(14.6)	-	-	内 7.5TR 8/4 成廣縁	細砂粒含む	良	ナデ	ナデ	口縁縁部面取り
9	SB-01	甕	古墳	口縁-胴部 1/8	(19.0)	-	-	内外ともに 7.5TR 7/4 にぶい、堀	細砂粒含む	良	ハケ	ナデ	口縁縁部面取り
10	SB-01	甕	古墳	口縁-胴上部 1/5	(14.8)	-	-	内外ともに 7.5TR 7/4 にぶい、堀	細砂粒含む	良	ハケ	ナデ	口縁縁部面取り
11	SB-01	甕	古墳	口縁-胴上部 1/8	(23.4)	-	-	内 7.5TR 7/6 堀 外 7.5TR 6/6 堀	細砂粒含む	やや良	ハケ	ハケ	口縁縁部が立ち上がる
12	SB-01	甕	古墳	口縁-胴部 1/8	(16.6)	-	-	内 7.5TR 7/4 にぶい、堀 外 10TR 7/4 にぶい、黄緑	細砂粒含む	やや良	ナデ後、ハケ	ナデ	口縁縁部が立ち上がる
13	SB-01	甕	古墳	口縁-胴上部 1/2	(16.8)	-	-	内外ともに 7.5TR 7/4 にぶい、堀	細砂粒含む	良	口へ狭 ナデ ナデツクナデ	不明	
14	SB-01	甕	古墳	口縁-胴部 1/2	(16.5)	-	-	内 7.5TR 7/4 にぶい、堀 外 5TR 6/4 にぶい、堀	1~2mm大の砂粒を含む	良	口へ狭 ナデ 胴部 ケズリ	ケズリ	
15	SB-01	甕	古墳	1/3	-	-	-	内 7.5TR 6/4 にぶい、堀 外 5TR 5/4 にぶい、赤帯	細砂粒含む	良	ハケ	ハケ後、ミガキ	
16	SB-01	甕	古墳	2/3	13.9	(6.5)	21.2	内 7.5TR 6/1 堀底 外 5TR 5/1 堀底	細砂粒含む	良	口縁 ナデ 胴部 ハケ	工具ナデ	
17	SB-01	甕	古墳	口縁-胴上部 1/4	(13.3)	-	-	内外ともに 7.5TR 7/3 にぶい、堀	砂粒少	良	口縁 ナデ 胴部 ハケ	ミガキ	
18	SB-01	甕	古墳	口縁-胴上部 1/4	(13.0)	-	-	内外ともに 10TR 7/3 にぶい、黄緑	砂粒少	良	口縁 ナデ 胴部 ハケ	ナデ	
19	SB-01	甕	古墳	胴部 1/2	-	(11.0)	-	内 7.5TR 6/2 成廣縁 外 7.5TR 6/4 にぶい、堀	細砂粒含む	良	ナデ	ナデ	
20	SB-01	鉢	古墳	1/2	(11.2)	3.1	7.2	内外ともに 10TR 6/4 成廣縁	細砂粒含む	良	口縁 ナデ 胴部 ハケ 胴下部 エケナデ	工具ナデ	
21	SB-01	鉢	古墳	破片	(14.4)	-	-	内外ともに 7.5TR 7/4 にぶい、堀	細砂粒含む	良	ナデ	ナデ	

宮原遺跡Ⅱ 遺物一覧表

No.	遺物名	形類	時代	発存率	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	色	調	土	焼成	外面調整	内面調整	備考
22	SR-01	鉢	古墳	1/4	(24.0)	-	-	内 7.5YR 6/4 にぶい 外 10YR 7/3 にぶい黄緑	細砂粒含む	細砂粒含む	良	ハケ後、ミガキ	ハケ後、ミガキ	
23	SR-01	鉢	古墳	口径 1/3	(28.6)	-	-	内 7.5YR 6/4 にぶい 外 7.5YR 5/2 灰褐	細砂粒含む	細砂粒含む	良	ナデ	ナデ	
24	SR-01	鉢	古墳	3/4	31.5	6.2	17.3	内 7.5YR 6/4 にぶい 外 5YR 6/4 にぶい赤褐	7~8mmの粗砂粒を含む	7~8mmの粗砂粒を含む	やや良	割断 ナデ 割断 ハケ・ケズリ	ナデ	
25	SR-01	器台	古墳	径部 1/2	9.0	-	-	内外ともに 7.5YR 7/4 にぶい	滑潤	滑潤	良	ミガキ	ミガキ	
26	SR-01	器台	古墳	径部 1/4	-	(12.4)	-	内外ともに 7.5YR 7/4 にぶい	滑潤	滑潤	良	ミガキ	不明	
27	SR-01	古墳	古墳	1/2	-	(11.7)	-	内外ともに 7.5YR 7/4 にぶい	細砂粒含む	細砂粒含む	良	不明	ハケ	
28	SR-01	ふた	弥生	4/5	つまみ径 4.4	(21.7)	8.1	内 10YR 6/2 灰黄褐 外 10YR 6/3 にぶい黄緑	細砂粒含む	細砂粒含む	良	つまみ縁 ユピオナエ ・ナデ	不明	
29	SR-01	壺	古墳	口径 1/4	(16.8)	-	-	内外ともに 10YR 7/4 にぶい黄緑	1~2mmの粗砂粒を含む	1~2mmの粗砂粒を含む	やや良	ナデ	不明	
30	SR-01	壺	古墳	径部 1/3	-	(10.7)	-	内外ともに 5YR 5/6 明赤褐	7~8mmの粗砂粒を含む	7~8mmの粗砂粒を含む	やや良	ナデツケ	不明	
31	SR-01	壺	古墳	胴~底部 1/2	-	7.3	-	内外ともに 7.5YR 6/4 にぶい	細砂粒含む	細砂粒含む	良	ハケ後、工具ナデ	工具ナデ	
32	SR-01	壺	古墳	口径部片	(14.0)	-	-	内外ともに 7.5YR 7/4 にぶい	細砂粒含む	細砂粒含む	良	ナデ	ナデ	
33	SR-02	壺	弥生	1/3	-	(6.1)	-	内外ともに 7.5YR 6/6 緑	細砂粒含む	細砂粒含む	良	ミガキ	不明	
34	SR-02	壺	弥生	口径~胴 1/3	-	-	-	内 7.5YR 6/6 緑 外 2.5YR 4/8 赤褐	細砂粒含む	細砂粒含む	良	割断 下文字 割断 赤砂	ハケ	伊越土器
35	SR-04	壺	弥生	口径~胴 1/3	(23.2)	-	-	内 5YR 5/6 明赤褐 外 5YR 5/3 にぶい赤褐	細砂粒含む	細砂粒含む	良	破注文	不明	
36	SR-04	壺	弥生	破片	(19.6)	-	-	内外ともに 7.5YR 6/4 にぶい	細砂粒含む	細砂粒含む	良	破注文	不明	
37	SR-04	壺	弥生	胴~胴上部 1/3	-	-	-	内 7.5YR 6/4 にぶい 外 10YR 4/1 灰灰	細砂粒含む	細砂粒含む	良	破注文	ナデ	
38	SR-04	ふた	弥生	1/3	つまみ径 5.4	-	-	内外ともに 10YR 6/1 灰灰	細砂粒含む	細砂粒含む	良	ミガキ	ミガキ	
39	SR-04	壺	古墳	破片	(19.3)	-	-	内外ともに 7.5YR 6/4 にぶい	細砂粒含む	細砂粒含む	良	ナデ	ナデ	
40	SR-05	壺	弥生	口径部 1/5	(11.2)	-	-	内外ともに 5YR 6/4 にぶい	細砂粒含む	細砂粒含む	良	破注文	不明	
41	SR-05	鉢	古墳	口径部片	-	-	-	内外ともに 7.5YR 5/3 にぶい	細砂粒含む	細砂粒含む	良	ミガキ	ミガキ	
42	SR-06	壺	弥生	口径~頸部 1/5	(21.6)	-	-	内外ともに 7.5YR 6/4 にぶい	細砂粒含む	細砂粒含む	良	破注文	ナデ	
43	SR-06	壺	弥生	口径部 1/4	(19.0)	-	-	内外ともに 7.5YR 4/1 灰灰	細砂粒含む	細砂粒含む	良	破注文	ナデ	

宮原遺跡Ⅱ 遺物一覧表

No.	遺構名	器種	時代	保存率	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	色調	胎土	焼成	外面調整	内面調整	備考
44	SB-06	甕	弥生	口縁～胴部 1/5	(12.0)	-	-	内外ともに 5YR 6/6 橙	細砂粒含む	良	被装文	ナデ	
45	SB-06	甕	弥生	口縁～胴部 1/4	(12.0)	-	-	内外ともに 2.5YR 5/6 明赤褐	細砂粒含む	良	被装文	不明	
46	SB-06	甕	弥生	底部	-	(6.0)	-	内外ともに 5YR 6/6 橙	細砂粒含む	良	被装文・ミガキ	ミガキ	
47	SB-06	甕	弥生	胴下部～底部 1/9	-	(13.4)	-	内外ともに 7.5YR 7/4 に近い 内 10R 4/4 赤褐 外 10R 4/6 赤	細砂粒含む	良	ミガキ	ナデ	胴部に2孔あり
48	SB-06	甕	弥生	口縁部 1/4	(14.0)	-	-	内外ともに 10R 5/6 赤	細砂粒含む	良	赤影・ミガキ	赤影・ミガキ	
49	SB-06	甕	弥生	胴部 1/8	(94.0)	-	-	内外ともに 10R 3/1 明赤灰	細砂粒含む	良	赤影・ミガキ	赤影・ミガキ	
50	SB-06	甕	弥生	胴部	18.9	-	-	内外ともに 10R 3/1 明赤灰	細砂粒含む	良	赤影・ミガキ	赤影・ミガキ	
51	SB-06	甕	弥生	胴部 1/2	-	(8.8)	-	内外ともに 5YR 5/6 明赤褐	細砂粒含む	良	ミガキ	不明	
52	SB-06	甕	弥生	胴部 1/2	-	(11.0)	-	内 10YR 6/4 に近い、黄褐色 外 5YR 4/6 赤褐	細砂粒含む	良	赤影・ミガキ	ナデ	
53	SB-06	甕	弥生	2/3	-	12.9	-	内外ともに 7.5YR 6/6 橙	細砂粒含む	やや軟	つまみ部ニゴテナエ	不明	1孔あり
54	SB-06	甕	弥生	口縁 1/8	(24.4)	-	-	内 10YR 4/2 灰赤褐 外 7.5YR 7/4 に近い、橙	細砂粒含む	良	不明	不明	
55	SB-06	甕	弥生	1/3	-	-	-	内 7.5YR 5/3 に近い、褐 外 10R 4/6 赤	細砂粒含む	良	胴部 被装文・ハケ 胴部 赤影・ミガキ	ナデ	
56	SB-07	甕	弥生	口縁 1/5	(22.0)	-	-	内外ともに 5YR 4/3 に近い、赤褐	細砂粒含む	良	被装文・履状文	不明	
57	SB-07	甕	弥生	3/4	20.0	-	-	内外ともに 5YR 6/6 明赤褐	細砂粒を多く含む	良	口縁～胴部 被装文 胴部 赤影・ミガキ	ミガキ	
58	SB-07	甕	弥生	2/3	(21.4)	-	-	内 5YR 6/6 橙 外 7.5YR 7/4 に近い、橙	細砂粒含む	良	被装文・履状文	ハケ	
59	SB-07	甕	弥生	1/5	(24.6)	-	-	内 7.5YR 6/6 橙 外 7.5YR 6/4 に近い、橙	細砂粒含む	良	被装文・履状文	不明	
60	SB-07	甕	弥生	1/3	(25.0)	-	-	内 2.5YR 5/6 明赤褐 外 7.5YR 7/4 に近い、橙	細砂粒含む	良	被装文・履状文	ハケ	
61	SB-07	甕	弥生	胴部 1/4	-	-	-	内外ともに 7.5YR 6/4 に近い、橙	細砂粒含む	やや軟	被装文・履状文	不明	
62	SB-07	甕	弥生	口縁 1/4	(20.0)	-	-	内外ともに 10YR 6/4 に近い、黄褐色	細砂粒含む	良	被装文・履状文	ナデ	
63	SB-07	甕	弥生	口縁破片	(42.2)	-	-	内外ともに 7.5YR 6/4 に近い、橙	細砂粒含む	良	胴部 赤影・ミガキ	不明	折り返し口縁
64	SB-07	甕	弥生	胴部破片	-	-	-	内外ともに 5YR 6/6 橙	細砂粒含む	良	ハケ後、被装文・履状文	不明	
65	SB-07	甕	弥生	胴部 1/2	(13.6)	-	-	内外ともに 10R 4/8 赤	細砂粒含む	良	赤影	赤影	

宮原遺跡Ⅱ 遺物一覧表

No.	遺物名	器種	時代	残存率	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	色調	胎土	施文	外底施文	内底施文	備考
66	SB-07	高坏	弥生	坏部 1/3	(23.0)	-	-	内外ともに 10R 4/8 赤	細砂粒を含む	良	赤彩	赤彩	
67	SB-07	高坏	弥生	坏部 1/3	(23.2)	-	-	内外ともに 10R 4/8 赤	細砂粒を含む	良	赤彩・ミガキ	赤彩・ミガキ	
68	SB-07	高坏	弥生	脚部 1/3	-	(10.8)	-	内 5YR 6/6 黄 外 10R 4/8 赤	細砂粒を含む	良	赤彩	赤彩	
69	SB-07	高坏	弥生	1/3	-	(13.4)	-	内 5YR 6/4 に近い黄 外 5YR 4/6 赤黄	細砂粒を含む	良	ミガキ	不明	
70	SB-07	壺	弥生	胴部破片	-	-	-	内外ともに 10R 4/8 赤	細砂粒を含む	良	赤彩・ミガキ・下底文	赤彩・ミガキ	
71	SB-07	壺	弥生	胴部破片	-	-	-	内 10YR 6/2 灰黄緑 外 10R 4/4 赤黄	細砂粒を含む	良	胴部下底文 胴部 赤彩・ミガキ	赤彩	
72	SD-01	甕	弥生	胴部破片	-	-	-	内 7.5YR 6/4 に近い黄 外 7.5YR 6/2 に近い黄	細砂粒を含む	良	波状文・履状文	ナゲツク	
73	SD-02	甕	弥生	1/4	(18.6)	-	-	内外ともに 10YR 6/4 に近い黄緑	細砂粒を多く含む	良	波状文・履状文	ナゲ	
74	SD-02	甕	弥生	1/2	12.8	-	-	内外ともに 5YR 6/4 に近い黄	細砂粒を多く含む	良	波状文・履状文	ナゲ	
75	SD-02	甕	弥生	1/3	(16.0)	-	-	内外ともに 7.5YR 7/4 に近い黄	細砂粒を含む	良	波状文	ミガキ	
76	SD-02	甕	弥生	胴～胴上部 1/2	-	-	-	内 5YR 6/6 黄 外 7.5YR 7/4 に近い黄	細砂粒を含む	良	ハケ・波状文	ミガキ	
77	SD-02	甕	弥生	胴部破片	-	-	-	内外ともに 5YR 5/4 灰黄	細砂粒を含む	良	波状文	ミガキ	
78	SD-02	甕	弥生	胴部破片	-	-	-	内外ともに 5YR 6/6 黄	細砂粒を多く含む	良	波状文・履状文	ナゲ	
79	SD-04	内耳土器	中世	胴部破片	-	-	-	内 7.5YR 5/3 に近い黄 外 7.5YR 4/1 橙灰	細砂粒を多く含む	良	ナゲ	ナゲ	
80	SD-04	内耳土器	中世	胴部破片	-	-	-	内 5YR 6/4 に近い黄 外 7.5YR 4/1 橙灰	細砂粒を多く含む	良	ナゲ	ナゲ	
81	SD-04	坏	平安	1/6	(18.6)	(8.0)	6.4	内 7.5YR 4/1 橙灰 外 5YR 6/4 に近い黄 内 7.5YR 5/3 に近い黄 外 7.5YR 4/2 灰黄	細砂粒を含む	良	口クロ	黒色顔料	底部糸切り・滲入
82	SK-02	内耳土器	中世	胴部破片	-	-	-	内外ともに 10YR 7/2 に近い黄緑	砂粒を殆ど含まない	良	ナゲ	ナゲ	
83	SK-09	土器蓋	中世	1/6	(7.5)	(5.2)	2.6	内外ともに 10YR 7/2 に近い黄緑	砂粒を殆ど含まない	良	口クロ	口クロ	
84	SK-11	内耳土器	中世	口縁部破片	-	-	-	内 7.5YR 5/3 に近い黄 外 7.5YR 4/1 橙灰	細砂粒を多く含む	良	ナゲ	ナゲ	
85	SK-11	内耳土器	中世	胴部破片	-	-	-	内 7.5YR 5/3 に近い黄 外 7.5YR 4/1 橙灰	細砂粒を多く含む	良	ナゲ	ナゲ	
86	SK-20	内耳土器	中世	胴部破片	-	-	-	内 7.5YR 5/3 に近い黄 外 7.5YR 4/1 橙灰	細砂粒を多く含む	良	ナゲ	ナゲ	
87	SK-20	内耳土器	中世	胴部破片	-	-	-	内 7.5YR 5/3 に近い黄 外 7.5YR 4/1 橙灰	細砂粒を多く含む	良	ナゲ	ナゲ	

宮原遺跡Ⅱ 遺物一覧表

No.	遺構名	器種	時代	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重さ (g)	材質	備考
88	SP-01	砥石	古墳	134	59	54	583	石英ひん岩	上端部および側面に敲打痕あり。
89	SP-01	砥石	古墳	128	54	20	195	シルト岩	刻みの深い鋸状痕がみられる。
90	SP-01	石織	縄文	(20)	(17)	(4)	(1.02)	黒礫石	土器集中部出土、層上への混入。
91	SP-02	横刃形石器	弥生	(68)	37	9	(27)	泥岩	
92	SP-05	石織	縄文	23	(18)	5.5	(2.01)	黒礫石	層上への混入
93	SP-06	砥石	弥生	(81)	(66)	(78)	(550)	安山岩	
94	SP-07	砥石	弥生	172	(103)	18	(595)	安山岩	
95	SP-07	大型輪刃石斧	弥生	(99)	83	49	(455)	ひん岩	全面に磨痕が及ぶ。
96	SD-04	剥片石器	弥生?	65	37	13	28	泥岩	剥片の前面から研棒を行い、側面の刃部を作出している。 研棒は別部作付のためだけに付されている。自然面は平面である。
97	SD-04	鏡質	中世	径 24	1	2.43		青銅	径底の2~3cm上部で出土 北宋「大觀通寶」初鑄1107年



宮原遺跡Ⅱ調査区全景



東側調査区（中央後方は秋和大蔵京古墳）



西側調査区



1号住居跡 (SB01)



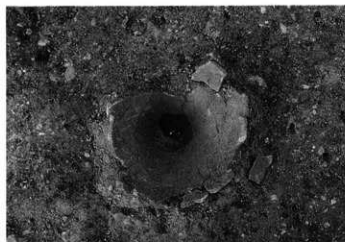
SB01 土器集中部



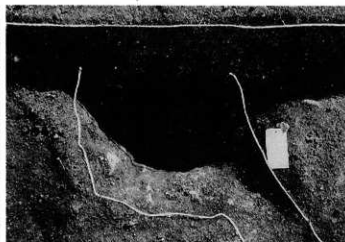
2号住居跡 (SB02)



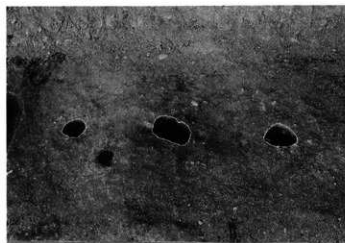
手前 SB02 後方 SB01



SB02 炉胎土器 (臺底部・No. 33)



SB02-P6



中世遺物跡 (ST01)



4号住居跡 (SB04)



5号住居跡 (SB05) 手前中央は攪乱



SB05



1・2号溝跡 (SD01・02) 北東から



SD01 土層断面 (A-B)



SD01・02 西から



SD01 土層断面 (C-D)



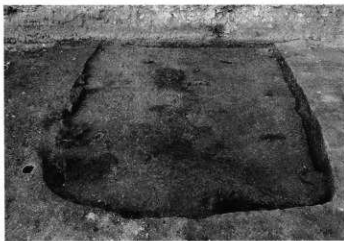
SD02 (手前) と SD01 合流部



SD02



6号住居跡 (SB06) 南から



SB06 炭化物出土状況 南から



SB06 北から



SB06 炭化物出土状況 北から



SB06 東から



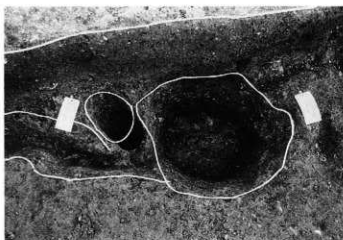
SB06-P1



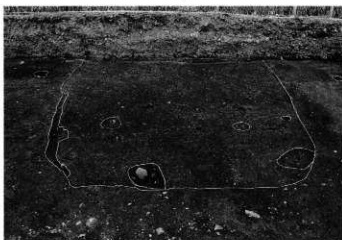
SB06-P9 (左)・P2 (右)



SB06-P4



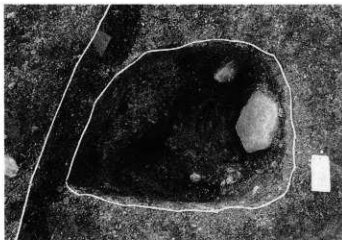
SB06 周溝・P6(左)・P7(右)



7号住居跡 (SB07)



4号溝跡 (SD04) 土層断面



SB07-P5



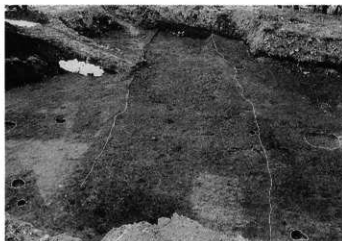
SD04 掘出土状況 北西から



SD04



SD04 掘出土状況 北から



SD04



SD04 礎出土状況 南から



SD04



SD04 礎出土状況 西から



SD04 礎出土状況 東から



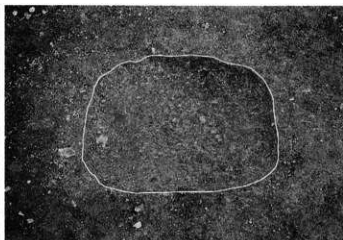
5号溝跡 (SD05) 南東から



SD05 北西から 左上後方はSD04



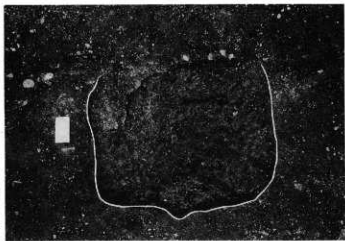
SK75



SK79



SK85



SK86



宮原遺跡遠景



秋和大蔵京古墳



調査風景



発掘調査参加者



宮原遺跡Ⅱ基本層序



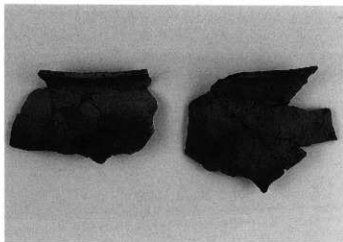
4



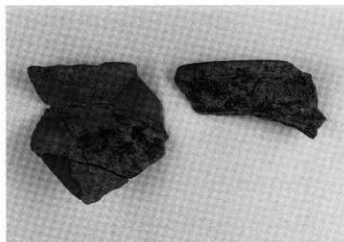
6



7



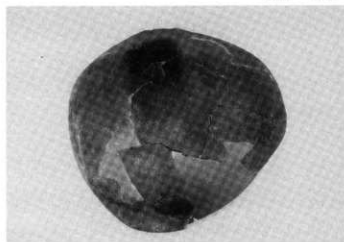
左 10 右 9



左 11 右 12



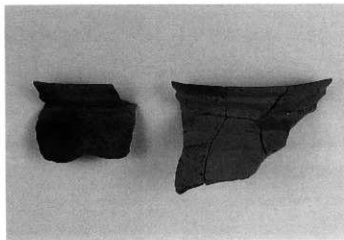
14



15



16



左 18 右 17



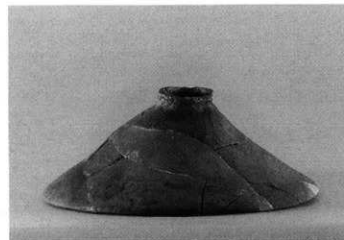
20



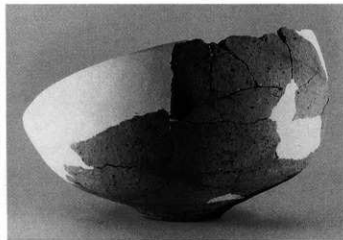
24



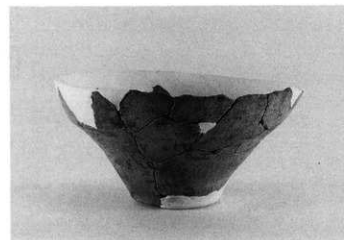
27



28



31



33



34



53



55



57



58



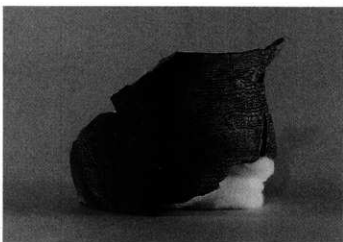
60



73



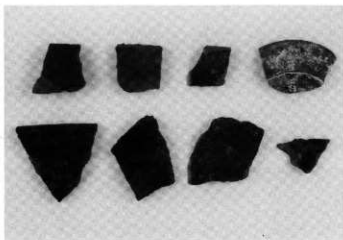
74



75



76



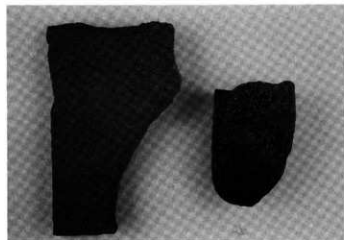
上段左から 79, 80, 82, 83 下段左から 84, 85, 86, 87



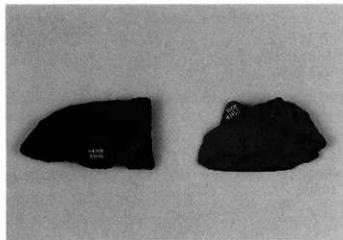
左 88 右 89



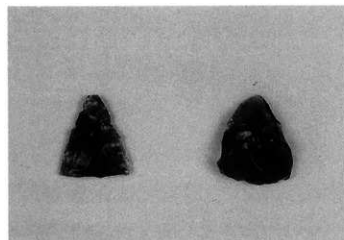
93



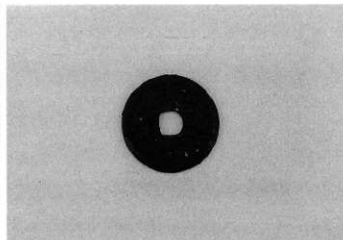
左 94 右 95



左 91 右 96



左 90 右 92



97

縄文土器

SB01 J-2, 10, 11, 15, 32

SB02 J-6, 7, 8, 17, 27

SB04 J-20, 22, 29, 30, 33

SB07 J-1, 25

SD01 J-9, 12, 14, 24, 28

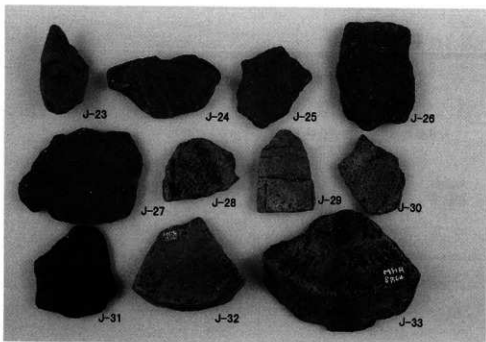
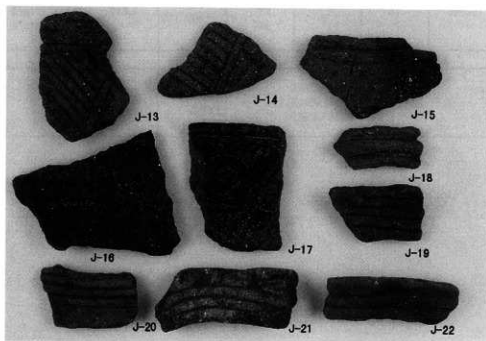
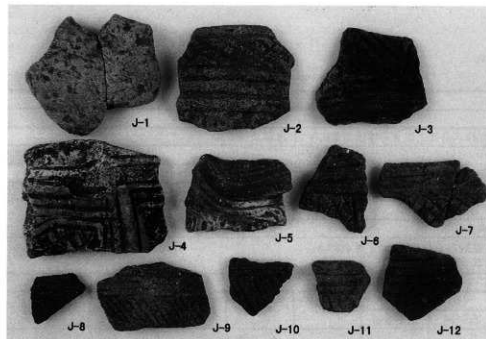
SD04 J-18, 31

SK17 J-3

SK20 J-13

SK75 J-16

遺構外 J-4, 5, 19, 21, 23, 26



調査報告書抄録

ふりがな	みやはらいせきに							
書名	宮原遺跡Ⅱ							
副書名	長野県酒類販売株式会社上田支店建設工事に伴う発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	上田市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第81集							
編著者名	小笠原 正							
編集機関	上田市教育委員会							
所在地	〒386-0025 長野県上田市天神2丁目4番74号 TEL 0268-22-4100							
発行年月日	2000年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 。 / 〃	東経 。 / 〃	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
らえだし みやはらいせき 宮原遺跡	上田市 おおのほのまわ 大字 秋和 あざみやはら 字 宮原	20203	76	36° 24' 51"	138° 13' 36"	19981223 ~19990127	1,610	集配施設建設
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
宮原遺跡	集落	弥生・古墳		竪穴住居跡6 掘立柱建物跡1 溝跡6・土坑93		縄文土器 弥生土器 土師器 石器・銭貨		

上田市文化財調査報告書 第81集

宮原遺跡Ⅱ

—長野県酒類販売株式会社上田支店
建設工事に伴う発掘調査報告書—

発行 平成12年3月31日

発行者 長野県酒類販売株式会社

上田市教育委員会

印刷 田口印刷株式会社